

昭和51年度

京都市埋蔵文化財調査概要

昭和 51 年度

京都市埋蔵文化財調査概要

2008 年

財団法人

京都市埋蔵文化財研究所

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

昭和 51 年度

京都市埋蔵文化財調査概要

2008 年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市は平安京の建都に始まり千二百年余の永い歴史を負う古都であり、その市域には平安京跡とその周辺を範囲とする数多くの遺跡が所在している。都市機能の整備と近代化のための再開発にともない文化財的景観や遺跡が壊される機会が多くなった。その対策として遺跡保護の法的措置が講じられるようになった。

京都市では昭和 47 年に市内遺跡地図台帳が作成され、登録されている遺跡などで工事をするときには事前の届け出の必要が条令で決められている。この頃から遺跡保護のための発掘調査を市が直接担当するようになったが、それまでは京都府や大学他の学術研究団体などが遺跡の発掘調査に関わり大きな成果を挙げてきた。

その後、遺跡発掘の事例が増加し、市内の遺跡保護と調査の体勢を一層に整備充実するために関係学術研究団体と京都市が協力し、昭和 51 年 11 月 1 日に財団法人京都市埋蔵文化財研究所が設立された。遺跡の発掘調査事業を中心にして、その成果発表の報告書を刊行し、あわせて講演、展示の機会を提供して遺跡への理解と関心を深めるための普及事業も積極的に実施して、市民をはじめ大方の埋蔵文化財保護への支援と理解を高めることを目的としている。

新たな調査体勢が活動をはじめて未だ時日は経過していないが、本書は設立 1 箇年間に研究所が実施した昭和 51 年度の発掘調査、試掘・立会調査の各概要について報告するものである。

本来、この「京都市埋蔵文化財調査概要」は研究所年報として各年度の 1 年間の発掘調査概要、試掘・立会調査概要その他について紹介し研究所の諸事業の全貌の概略を周知することを目的とするものである。

研究所発足当初には、委託を受けて発掘調査を行った成果の一部を「京都市埋蔵文化財研究所概報集 1977 - I」として昭和 52 年 8 月に刊行している。年報については昭和 58 年 3 月に昭和 56 年度の「京都市埋蔵文化財調査概要」が刊行されたのが最初である。昭和 51 年度から 55 年度の調査概要については 30 年余の時間が経過してあらためて編集をすすめてきたが、今ここに、本研究所発足当初における昭和 51 年度の調査事業概要報告書として本書を上梓する次第である。ご参考になれば幸いである。

平成 20 年 9 月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

凡 例

- 1 昭和 51 年 11 月に、六勝寺研究会・鳥羽離宮跡調査研究所・平安京調査会の 3 団体と京都市が一体となって、財団法人京都市埋蔵文化財研究所が設立された。
本書は、財団法人京都市埋蔵文化財研究所が、その初年度の昭和 51 年度に実施した、発掘調査（第 1 章）、試掘・立会調査（第 2 章）の年次報告である。
- 2 本書中に示した方位は、大半が磁石によったが、一部天測を行った現場もある。水準高は、一部京都市水準点を使用したか、大半は任意である。
- 3 本書中の地図は、京都市発行の都市計画基本図（縮尺 1 : 2,500）を参考にし、作成した。
- 4 長岡京の条坊呼称は、調査時には既往の呼称（旧呼称）を使用していたが、長岡京連絡協議会の取り決めにより、新呼称を用いた。
- 5 遺構表示のうち、表示記号で示したものは、奈良国立文化財研究所の用例に従った。
- 6 調査位置図の方位は、北を上配置し、縮尺は付記した。
- 7 国庫補助事業による調査は、『鳥羽離宮跡発掘調査概要』および『中臣遺跡発掘調査概要』に報告している。区画整理による調査は、『鳥羽離宮跡 区画整理道路予定地内発掘調査概要 昭和 51 年度』および『中臣遺跡 1976』に報告している。また、一部の調査は『京都市埋蔵文化財研究所概報集 1977 - I』『京都市埋蔵文化財研究所概報集 1978 - I』『京都市埋蔵文化財研究所調査報告』などに報告している。既報告のものは書名を文末に記した。
- 8 各報告は伊藤 潔が編集・執筆した。また、それ以外に本書作成には調査業務職員および資料業務職員があたった。

目 次

第1章 発掘調査

I 昭和51年度の発掘調査概要 …… 1

II 平安宮・京跡

1 平安宮内蔵寮跡 …… 2

2 平安宮縫殿寮跡 …… 3

3 平安宮造酒司跡 …… 4

4 平安京左京五条一坊五町 …… 6

5 平安京左京八条三坊二町 …… 9

6 平安京左京九条二坊四町 …… 11

7 平安京右京四条四坊十二町 …… 13

8 平安京右京六条二坊八町 …… 14

III 鳥羽離宮跡

9 鳥羽離宮跡 21・22 次調査 …… 17

10 鳥羽離宮跡 23～28 調査 …… 18

IV 中臣遺跡

11 中臣遺跡 7 次調査 …… 19

V 長岡京跡

12 長岡京左京三条三坊 …… 22

VI その他の遺跡

13 北野廃寺 …… 24

14 南禅寺境内 …… 25

15 仁和寺御所跡 …… 27

16 常盤東ノ町古墳群・
仁和寺子院跡 1 …… 29

17 常盤東ノ町古墳群・
仁和寺子院跡 2 …… 31

18 仁和寺子院跡 …… 32

19 臨川寺旧境内 …… 34

20 法住寺殿跡 …… 35

21 山科本願寺跡 1 …… 38

22 山科本願寺跡 2 …… 39

23 深草遺跡 …… 40

第2章 試掘・立会調査

I 昭和51年度の

試掘・立会調査概要 …… 42

図 版 目 次

図版 1 平安京左京五条一坊五町

1 調査区全景（西から）

2 調査区全景（北から）

図版 2 平安京左京五条一坊五町

1 井戸 SE 1 全景（北から）

2 井戸 SE 2 全景（東から）

図版 3 平安京右京六条二坊八町

1 西鞠負小路（北から）

2 西鞠負小路東側柱穴群（西から）

3 第2面全景（西から）

図版 4	中臣遺跡 7 次調査	1 E 区全景 (南から)
		2 C - 5 区全景 (東から)
		3 C - 5 区 13 号住居 (東から)
図版 5	法住寺殿跡	1 第 1 面全景 (北西から)
		2 第 2 面全景 (北から)
図版 6	山科本願寺跡 1・2	1 山科本願寺跡 1 調査区全景 (西から)
		2 山科本願寺跡 2 調査区全景 (北から)

挿 図 目 次

図 1	平安宮内蔵寮跡	調査位置図	2
図 2	〃	遺構実測図	2
図 3	平安宮縫殿寮跡	調査位置図	3
図 4	〃	調査区配置図	3
図 5	平安宮造酒司跡	調査位置図	4
図 6	〃	調査区配置図	4
図 7	〃	1 次調査区遺構平面図	5
図 8	〃	2 次調査区遺構平面図	5
図 9	平安京左京五条一坊五町	調査位置図	6
図 10	〃	調査区配置図	6
図 11	〃	遺構平面図	7
図 12	〃	東トレンチ北壁断面図	7
図 13	〃	SE 1・2 実測図	8
図 14	平安京左京八条三坊二町	調査位置図	9
図 15	〃	調査区配置図	9
図 16	〃	NS トレンチ東壁断面図	10
図 17	〃	NS トレンチ遺構平面図	10
図 18	平安京左京九条二坊四町	調査位置図	11
図 19	〃	調査区配置図	11
図 20	〃	SK 8 実測図	11
図 21	〃	遺構実測図	12
図 22	平安京右京四条四坊十二町	調査位置図	13
図 23	〃	調査区配置図	13
図 24	〃	A - 1 トレンチ遺構実測図	13

図 25	平安京右京六条二坊八町	調査位置図	14
図 26	”	調査区配置図	14
図 27	”	北壁断面図	15
図 28	”	第1面遺構平面図	15
図 29	”	第2面遺構平面図	15
図 30	”	遺構実測図	16
図 31	鳥羽離宮跡 21・22 次調査	調査位置図	17
図 32	”	調査区配置図	17
図 33	鳥羽離宮跡 23～28 次調査	調査位置図	18
図 34	中臣遺跡 7 次調査	調査位置図	19
図 35	”	A 区遺構平面図	20
図 36	”	B 区遺構平面図	20
図 37	”	調査区配置図	20
図 38	”	C - 5 区土器出土状況	21
図 39	長岡京左京三条三坊	調査位置図	22
図 40	”	調査区配置図	22
図 41	”	1 トレンチ中央セクション断面図	22
図 42	”	遺構平面図	23
図 43	北野廃寺	調査位置図	24
図 44	”	西壁断面図	24
図 45	南禅寺境内	調査位置図	25
図 46	”	調査区配置図	25
図 47	”	中央部断面図	26
図 48	”	第1面遺構平面図	26
図 49	”	第2面遺構実測図	26
図 50	仁和寺御所跡	調査位置図	27
図 51	”	調査区配置図	27
図 52	”	セクション断面図	28
図 53	”	主遺構復元図	28
図 54	常盤東ノ町古墳群・仁和寺子院跡 1	調査位置図	29
図 55	”	調査区配置図	29
図 56	”	1 号墳断面図	29
図 57	”	遺構平面図	30
図 58	常盤東ノ町古墳群・仁和寺子院跡 2	調査位置図	31
図 59	”	東壁断面図	31

図 60	仁和寺子院跡	調査位置図	32
図 61	〃	調査区配置図	32
図 62	〃	西壁断面図	33
図 63	〃	遺構平面図	33
図 64	臨川寺旧境内	調査位置図	34
図 65	〃	調査区配置図	34
図 66	法住寺殿跡	調査位置図	35
図 67	〃	調査区配置図	35
図 68	〃	遺構実測図	36
図 69	〃	出土軒瓦拓影・実測図	37
図 70	山科本願寺跡 1	調査位置図	38
図 71	〃	調査区配置図	38
図 72	〃	基本層序	38
図 73	山科本願寺跡 2	調査位置図	39
図 74	〃	調査区配置図	39
図 75	〃	北壁断面図	39
図 76	深草遺跡	調査位置図	40
図 77	〃	調査区配置図	40
図 78	〃	1 トレンチ北壁断面図	40
図 79	平安京左京二条二坊、史跡二条城（1）立会調査位置図		43
図 80	平安京左京三条一坊一町（2）立会調査位置図		43
図 81	平安京左京七条一坊（3）立会調査位置図		43
図 82	法成寺跡（9）立会調査位置図		43
図 83	尊勝寺跡（4・5）立会調査位置図		44
図 84	白河北殿跡（6）立会調査位置図		44
図 85	鳥羽離宮跡（7）立会調査位置図		45
図 86	長岡京跡（8）立会調査位置図		45
図 87	深草遺跡（10）立会調査位置図		46
図 88	伏見城跡（11・12）立会調査位置図		46

表 目 次

表 1	昭和 51 年度発掘調査一覧表	47
表 2	昭和 51 年度試掘・立会調査一覧表	49

第1章 発掘調査

I 昭和51年度の発掘調査概要

本年度の発掘調査は30件で、その内訳は平安宮跡4件、平安京跡5件（左京域3件、右京域2件）、鳥羽離宮跡8件、中臣遺跡1件、長岡京跡1件、その他の遺跡11件である。

平安宮・京跡 平安宮跡の調査を4件実施しているが、いずれも明確な遺構は検出できなかった。平安京跡では、左京五条一坊（4）で平安時代前期の井戸2基を検出し、土器類と共に和同開珎・神功開寶や斎串・櫛などが出土した。条坊関連遺構としては、右京域では六条二坊（8）で平安時代前期の西鞠負小路路面および両側溝・築地跡を検出した。側溝を一部検出した例は他に左京八条三坊（5）の八条坊門小路北側溝がある。平安京跡の下層では、右京六条二坊（8）で古墳時代前期の流路跡、左京九条二坊（6）では弥生時代遺物包含層を検出した。

鳥羽離宮跡 鳥羽離宮跡では、東殿地区と田中殿地区で21次から28次までの発掘調査（9・10）を実施した。21次調査A区では平安時代後期の建物跡と推定される礎石および抜き取り穴の列が4列認められた。鳥羽離宮跡の調査で建物礎石が出土した例は、南殿の一連の建物跡の他にはめだって見られず、今回の調査で出土した礎石と合わせて今後の目安となろう。

中臣遺跡 中臣遺跡7次調査（11）として6箇所を調査した。検出した遺構は弥生時代末期の竪穴住居2棟、古墳時代中期の竪穴住居1棟、古墳時代後期の竪穴住居11棟、掘立柱建物1棟などである。

長岡京跡 長岡京左京三条三坊（12）で、三条大路と建物群を検出した。条坊復元起点ともいふべき道路遺構を検出したことは大きな成果といえる。

その他の遺跡 北野廃寺（13）の調査では、創建時の遺構と思われる築地状遺構とそれに伴う南北溝を検出した。また平安時代前期の遺構からは9世紀後半から10世紀前半の保存状況の良好な土器群が出土し、その後の編年研究に貴重な資料となった。仁和寺御所跡円堂院の調査（15）では、創建時から応仁の乱までの遺構面と寛永の再建から現代に至るまでの遺構面を検出した。常盤東ノ町古墳群・仁和寺子院跡の調査（16・17）では、当初仁和寺子院跡推定地を対象としたものであったが、（16）では横穴式石室をもつ3基の円墳を検出した。（17）でも石室の抜き取り跡を検出した。顕在的な遺跡であるはずの古墳が墳丘部分を削平され、地下にその痕跡をとどめているというケースは当然あり得ることであり、こうした事態を今後も考慮しておかなくてはならないであろう。臨川寺旧境内の調査（19）では、臨川寺に関連する遺構は検出されなかったが、創建以前の平安時代から鎌倉時代の遺構が検出された。法住寺殿跡（20）の調査では、室町時代後期から近世の遺構面2面を検出したが、法住寺殿跡に関連する遺構は検出されなかった。

II 平安宮・京跡

1 平安宮内蔵寮跡

経過 調査地は上京区千本通下長者町上る草堂前之町のビル建設予定地である。当該地は平安宮内蔵寮跡に当たるため、発掘調査を実施した。調査は現代層（地表下 0.2～0.45 m）まで重機掘削し、近世面から調査を開始した。

遺構・遺物 基本層序は現代層（0.2～0.45 m）以下、灰褐色泥砂・暗灰褐色泥砂（0.4～0.5 m）、淡黄灰色砂泥（0.1 m）、茶褐色砂泥（0.1～0.2 m）、黒褐色泥砂（0.2～0.4 m）、暗茶灰色砂泥（東端：0.15 m）、黄灰色泥土（東端：標高 50.40 m）・淡黄褐色混礫泥砂（西端：標高 51.30 m）の地山となる。なお調査区中央部は近世の攪乱を受けている。

検出した遺構は、ほとんどが近世の土壌（SK 2～15）であり、他に円形石組の近世井戸（SE 1）1基である。平安時代の遺構は北西部で検出した SK 1 があるが、南北端を近世遺構によって壊されており、東西 1.3 m、南北 0.6 m 以上、深さ 0.4 m を測る。

出土した遺物は、ほとんどが近世以降のものであり、土師器皿 Nr・皿 Sb・皿 S・椀・塩壺・胞衣壺、染付椀・皿、備前播鉢、伏見人形、鉄鍋などがある。

平安時代の遺物は、黒褐色泥砂層から平瓦、土師器皿が出土した。土師器皿には外面へラ削り調整されたものがあるが、小片のため図示できなかった。

小結 今回の調査では近世の土壌・井戸が検出されるにとどまり、平安宮内蔵寮に関連する遺構は検出されなかった。しかし、平安時代の遺物包含層からは少量であるが平安時代前期に属する土師器皿が出土した。付近に良好な遺構が残存することが十分想定される。

『京都市埋蔵文化財研究所概報集 1978 - I』1978 年報告

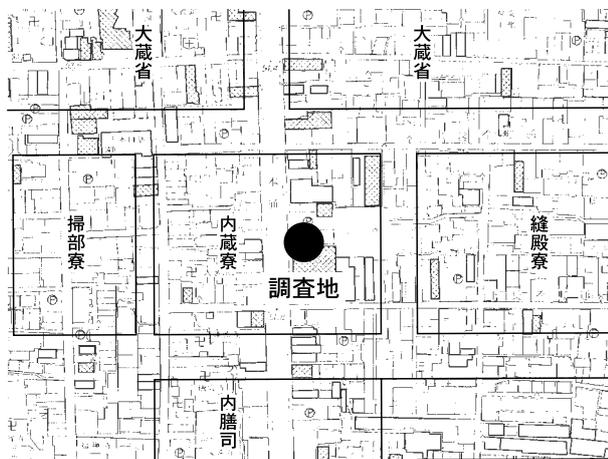


図1 調査位置図（1：5,000）

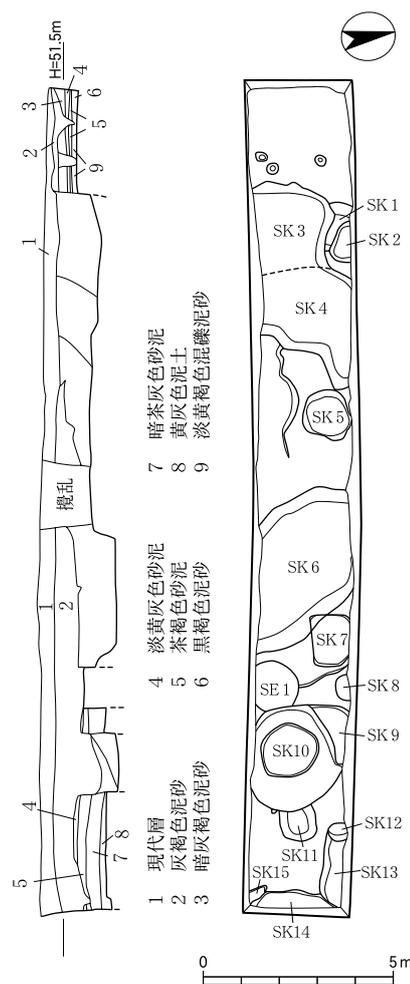


図2 遺構実測図（1：200）

2 平安宮縫殿寮跡

経過 上京区下長者町裏門通西入坤高町でビルが建築されることになり、発掘調査を実施することになった。調査は18箇所のコンクリート基礎掘下げ部分を対象として、1976年11月9日に開始し同20日に終了した。

遺構・遺物 基本層序は現代層が厚さ0.7～0.8mあり、現代層下はいわゆる聚楽土と呼ばれる地山（黄灰色泥土：調査区北で標高48.63m）となる。

検出した遺構は聚楽土を採取した土取穴のみで、縫殿寮に関連した遺構は未検出である。ただ、土取穴からは平安時代の平瓦や加工を施した凝灰岩が出土している。遺物は全て土取穴から出土した。中・近世の土師器・陶磁器類が主体で、その他には平安時代の瓦片、凝灰岩の破片などがある。

小結 今回の調査では縫殿寮跡に関連する明確な遺構を確認することはできなかった。しかし、現地表下0.7～0.8mで地山を検出しており、さらに、原位置を失っているが加工痕がある凝灰岩が出土していることから、周辺では良好に遺構の遺存する可能性が高いと考えられる。

『平安宮Ⅰ』京都市埋蔵文化財研究所調査報告
第13冊 1995年報告

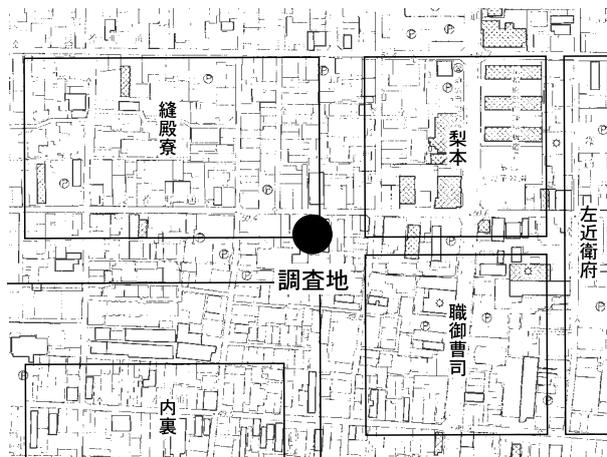


図3 調査位置図（1：5,000）

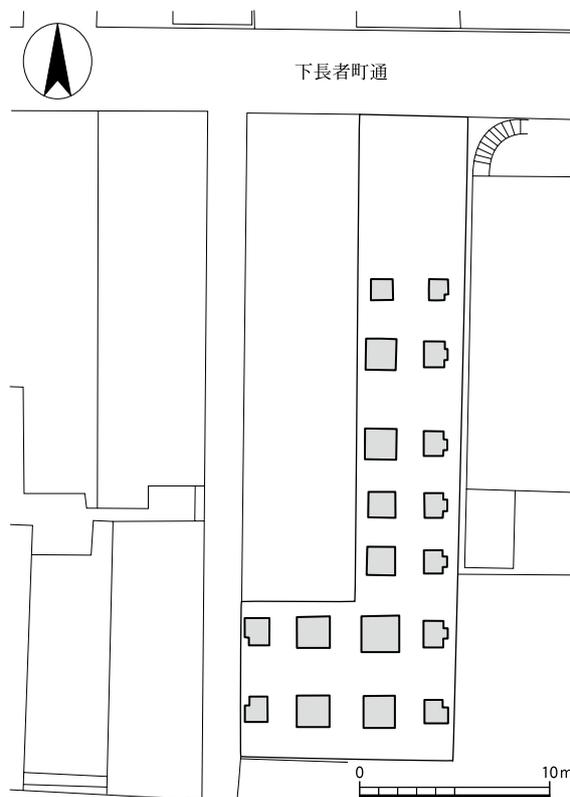


図4 調査区配置図（1：400）

3 平安宮造酒司跡

経過 中京区聚楽廻松下町の京都市駐車場公社の跡地に京都市生涯学習総合センター（京都アスニー）が建設されることになり、発掘調査を実施した。

調査地は平安宮造酒司跡の南限に位置し、2次調査区は南東コーナーに推定される。

京都市駐車場公社の盛土が厚く、重機で遺構検出面まで2mほど掘削した。

遺構・遺物 基本層序は1次調査・2次調査ともほとんど変わりなく、盛土（1.0～1.5

m）、第1層（病院の整地層：0.5 m）、第2層（近世以降の堆積土：0.2 m）、第3層（黄褐色泥砂：0.1 m）、地山（淡黄色砂泥・黄灰色砂礫）となる。

1次調査 検出した遺構は近世の柱穴群、土壇、中世末期の溝状遺構、平安時代の土壇などがある。C区西部で検出した平安時代の須恵器、土師器小片が出土した土壇（SK 1）は、東西 5.9 m、南北 1.5 m以上、深さ 0.45 mを測るが、詳細は不明である。

2次調査 検出した遺構は溝、柱穴列、土壇、瓦溜などがある。D区中央部で検出した瓦溜（SX 4）からは、平安時代の軒平瓦・軒丸瓦、凝灰岩数個が出土した。出土遺物は大半が平安時代の瓦類であるが、後世の遺構から出土した。瓦類は磨滅した平瓦がほとんどで、軒平瓦 19 点、軒丸瓦 4 点、緑釉瓦数点が出土した。土器類は近世の陶磁器類、平安時代の須恵器、土師器、緑釉陶器などがあるが、ほとんど細片である。

小結 今回の調査では平安時代の明確な遺構、包含層は検出されていない。地山の直上層が近世の堆積土であり、大規模な削平が行われたものと考えられる。

平安宮造酒司跡の発掘調査は京都市文化財保護課が実施した調査を含め3箇所あるが平安時代の明確な遺構は検出されていない。しかし、今

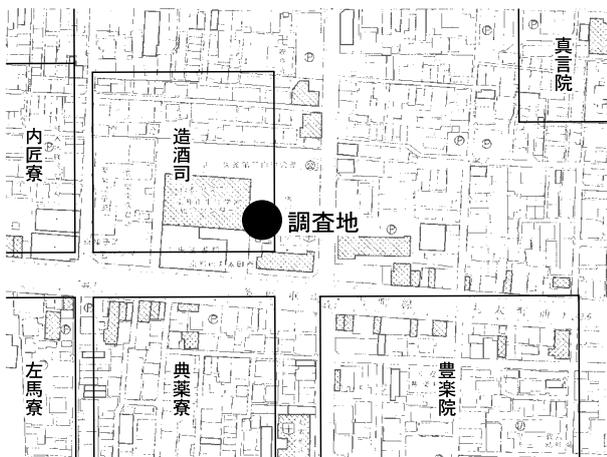


図5 調査位置図（1：5,000）

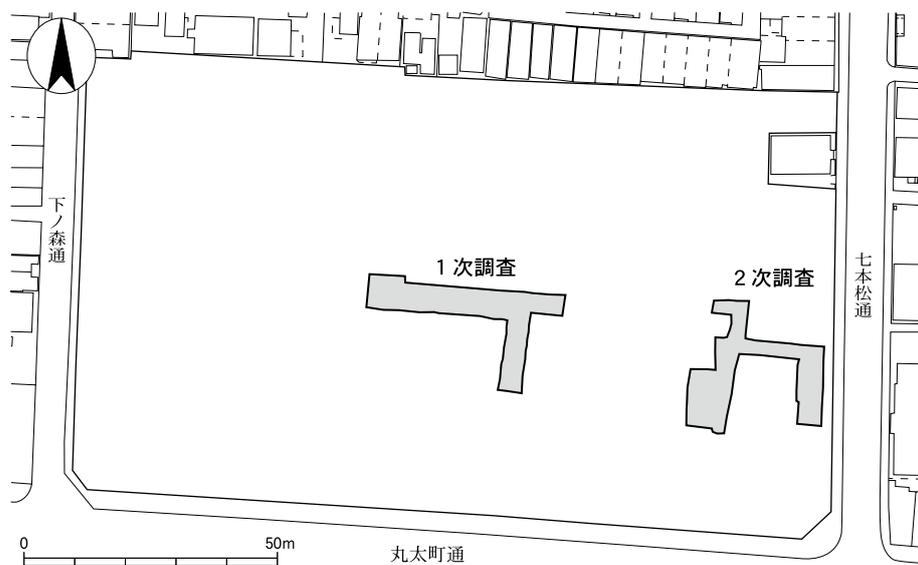


図6 調査区配置図（1：1,500）

回出土した多量の瓦類や凝灰岩などから推定し調査を推し進めることによりその一端が解明されるであろう。

『京都市埋蔵文化財研究所概報集 1977 - I』 1977 年報告

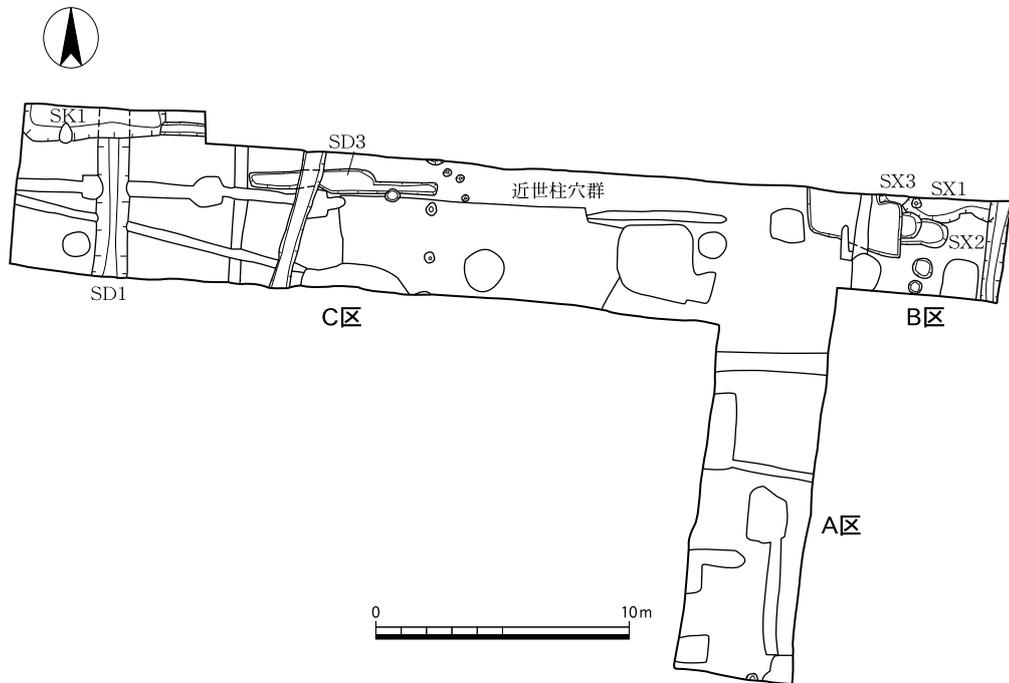


図7 1次調査区遺構平面図 (1 : 300)

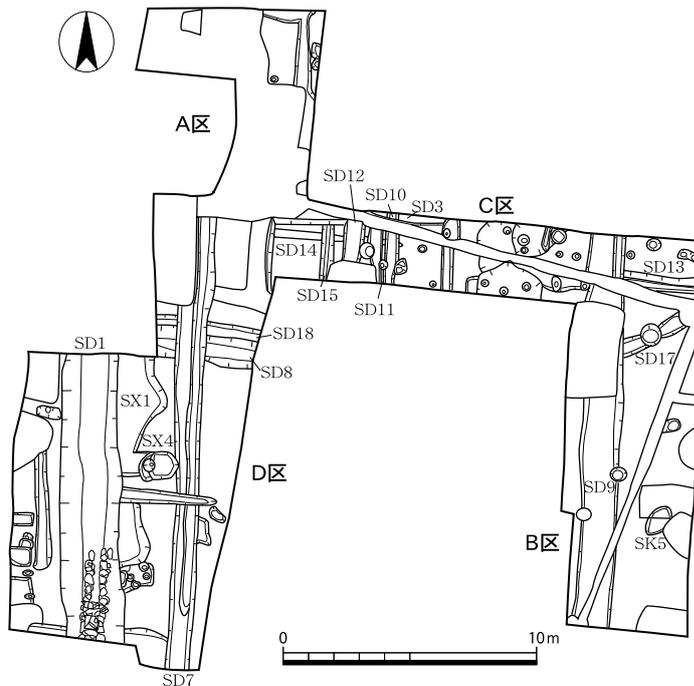


図8 2次調査区遺構平面図 (1 : 300)

4 平安京左京五条一坊五町（図版1・2）

経過 中京区壬生相合町でマンションが建設されることになり、発掘調査を実施した。調査地は平安京左京五条一坊五町の東部に位置する。『仁和寺所蔵古図』は齋円住房があったことを伝えている。

調査区は敷地に沿って設定し、遺構面上面まで重機掘削し、調査を開始した。

遺構・遺物 基本層序は盛土（0.75～1.0 m）、東トレンチの一部で近代遺物を包含する暗茶褐色土（0.1～0.15 m）、以下、黄灰色泥土（聚楽土）・黄褐色砂礫層などの地山となる。

地山面で、江戸時代から平安時代の遺構を検出した。

江戸時代の遺構SK15は、長軸2.5 m以上、短軸1.0 mの隅丸方形を呈する墓壇跡である。埋土は暗灰色土で寛永通寶、人骨片が出土した。

東トレンチ中央東寄りで検出したSD 4は、幅1.0 m、深さ0.35 mを測る南北方向の溝である。溝内からは土師器、須恵器、瓦器、陶器、磁器、布目瓦、棧瓦など、中世から近世の遺物が出土している。中世以降の遺構である。

平安時代の遺構は、前期の井戸2基だけである。SE 1は、東トレンチ南西隅の近世遺構SX 2を掘り下げた底部で検出した。2.8 mの方形の掘形で、深さは1.5 m。井筒は直径1.5 mの円形で板の痕跡を35枚分確認した。底面の標高は26.85 mである。井筒内の埋土は5層に分層でき、最下層は井筒を設置した後埋め戻した層と考えられる。その上面には、0.1～0.2 mの礫を敷詰めたような痕跡を検出した。埋土3層・4層からは、平安時代前期の土器類と和銅開珎、神功開寶の錢貨や、齋串、櫛などの木製品が出土した。

SE 2は2.1 m×1.6 mの方形の掘形で、深さは1.6 m。井筒は内法0.95 mの方形横棧縦板組井戸で、底面の標高は27.05 mである。井戸部材は下段の横棧を残して抜き取られている。井筒内の埋土は3層に分層できる。

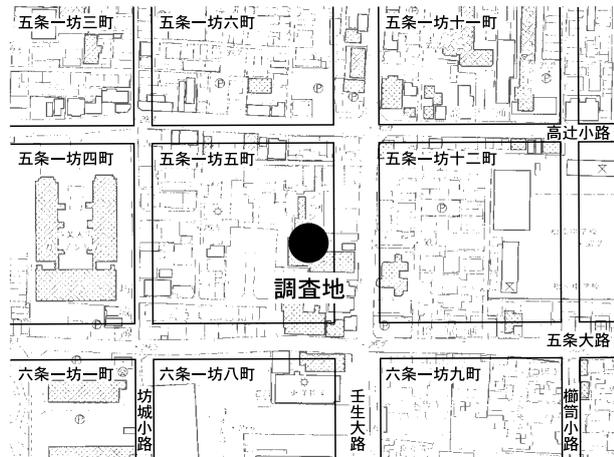


図9 調査位置図（1：5,000）

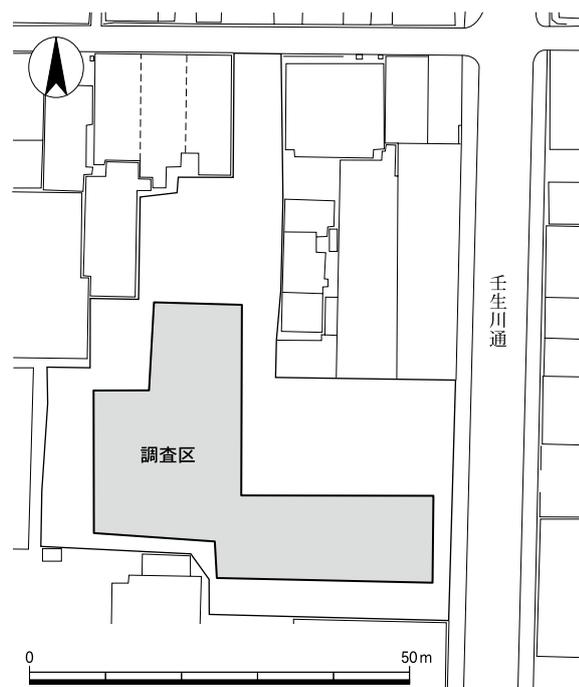
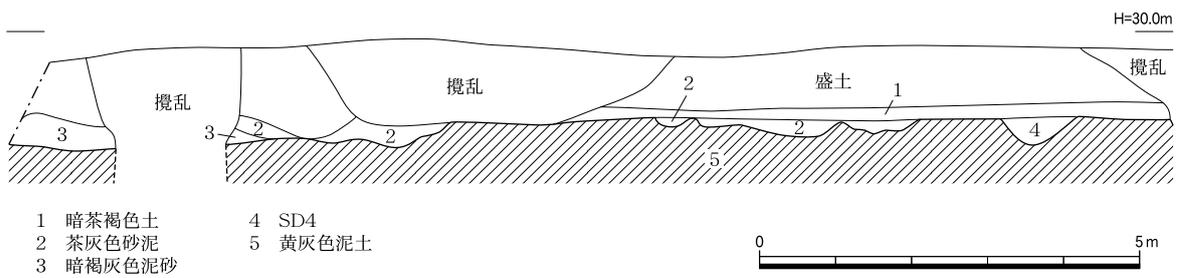


図10 調査区配置図（1：1,000）



図 11 遺構平面図 (1 : 250)



- 1 暗茶褐色土
- 2 茶灰色砂泥
- 3 暗褐色泥砂
- 4 SD4
- 5 黄灰色泥土

図 12 東トレンチ北壁断面図 (1 : 100)

遺物は底部上面で須恵器甕が1個体分出土した。

小結 今回の調査では、後世の削平が著しく、盛土直下が地山となる。遺構検出面では近世以降の遺構が複雑に重なり合っており、それ以前の遺構の遺存状態は悪く、深い遺構しか残っていない。

東トレンチ中央付近で検出した南北方向の溝 SD 4は、中世以降の道路側溝と考えられる。

平安時代の遺構としては、井戸2基を検出したのみである。しかし、後世の遺構から混入品として同時代の土器類、瓦類が多数出土している。

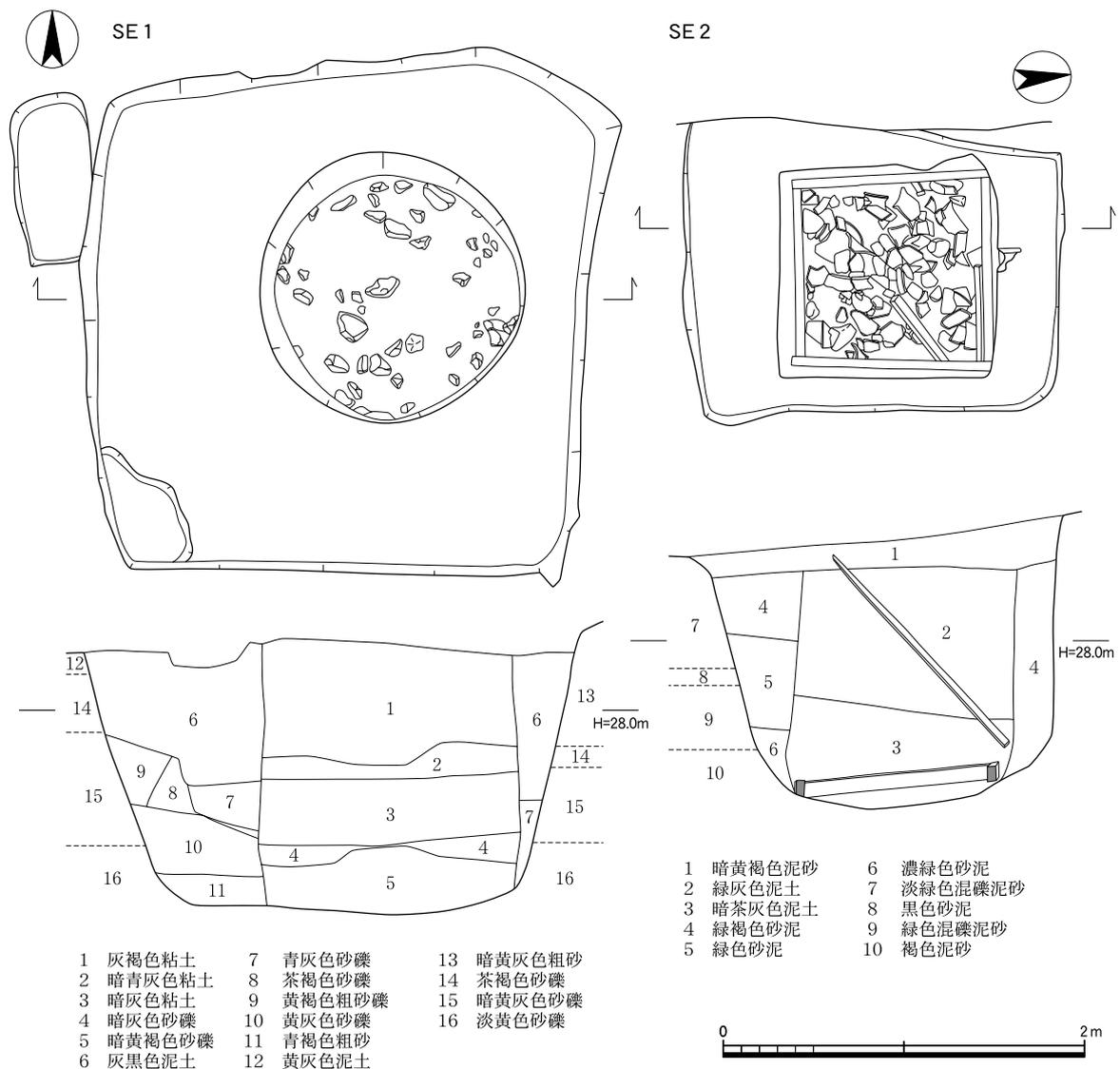


図 13 SE 1・2実測図 (1:40)

る。また井戸跡を検出していることから、付近に生活面が検出される可能性が高い。

『京都市埋蔵文化財研究所概報集 1978 - I』 1978 年報告

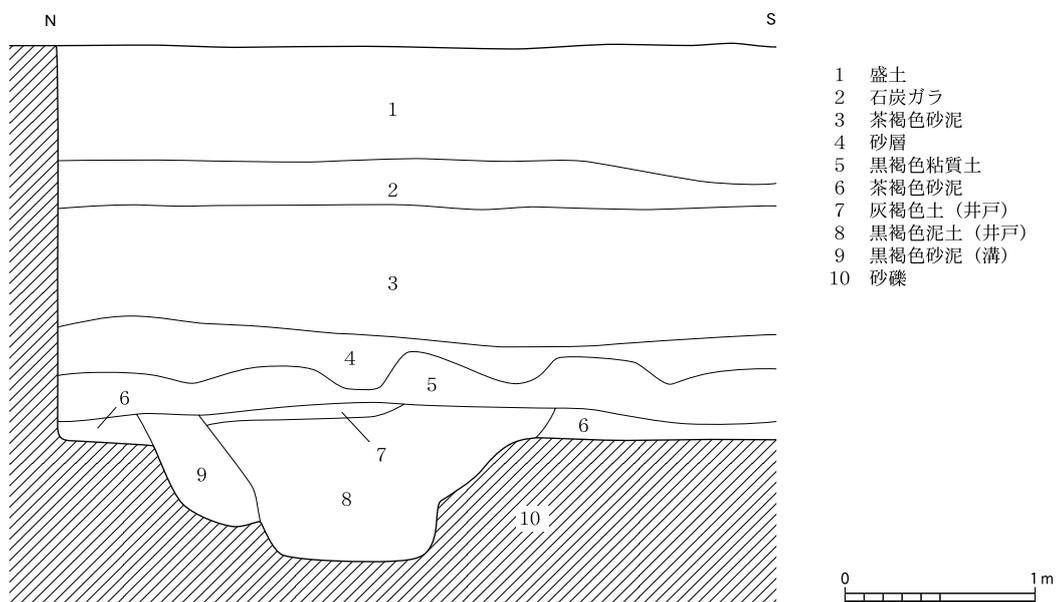


図 16 NS トレンチ東壁断面図 (1 : 40)

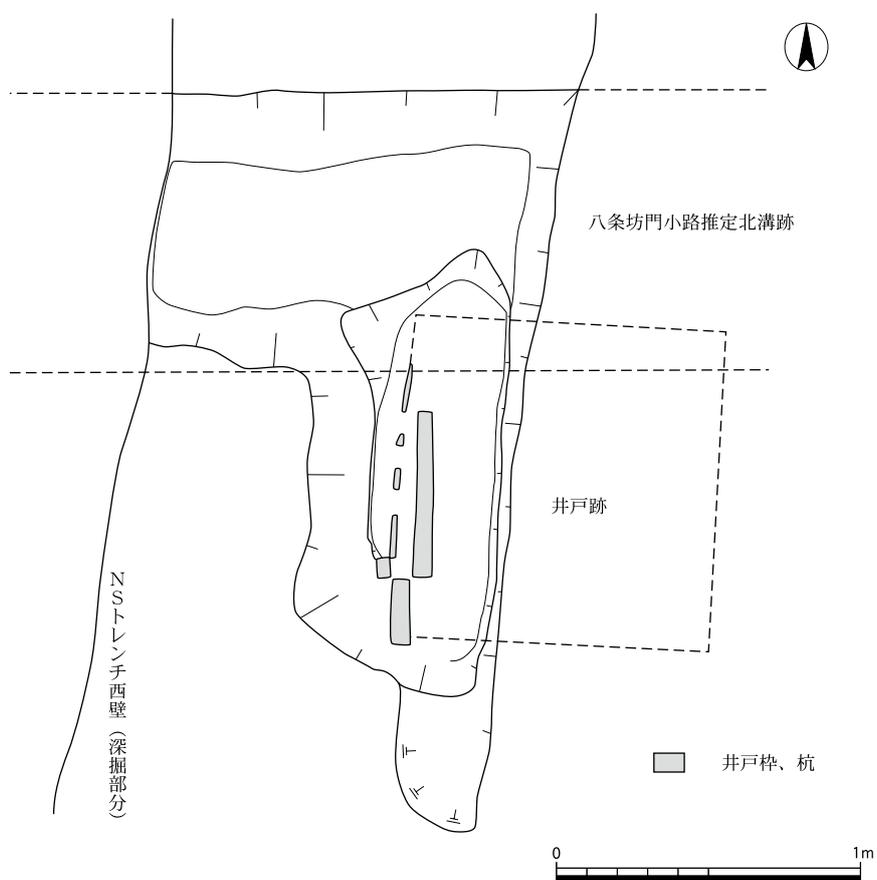


図 17 NS トレンチ遺構平面図 (1 : 25)

6 平安京左京九条二坊四町

経過 調査地は南区東寺東門前町の三井銀行京都東寺支店建設地である。当該地は平安京左京九条二坊四町に位置し、「大宮相国堂」に当たるため、発掘調査を実施した。

調査は幅4mで東西22m、南北30mのL字形のトレンチを設定し、盛土層を重機掘削し、旧耕作土から開始した。

遺構・遺物 基本層序は盛土(0.5m)、旧耕作土(0.25m)、床土(0.25m)、近世の遺構検出面である灰黄色砂礫層となる。以下淡灰褐色砂礫、淡黄褐色砂礫、淡灰色粗砂、灰黄色砂礫、黄灰色粘土などの流路内の堆積となる。地表下2mで弥生時代末期から古墳時代前期の包含層から土器片が少量出土した。

検出した遺構はいずれも近世のもので溝2条、土塋6基がある。土塋SK8は瓦積みで、内法0.25m四方のトイレ状遺構で、深さは0.65mである。

出土した遺物は、ほとんどが近世のものであり、古墳時代前期の土器片や5世紀代の須恵器壺片などが出土しているが、包含層または近世遺構からの混入品である。

小結 調査では地表下1mほどで遺構検出面となるが、近世の遺構しか認められず、大宮相国堂に関連する遺構・遺物は検出されなかった。

調査地周辺の調査では、平安時代から中世の遺構・遺物が検出されている。

当該地は後世に削平されたと考える。

『京都市埋蔵文化財研究所概報集 1978 - I』
1978年報告

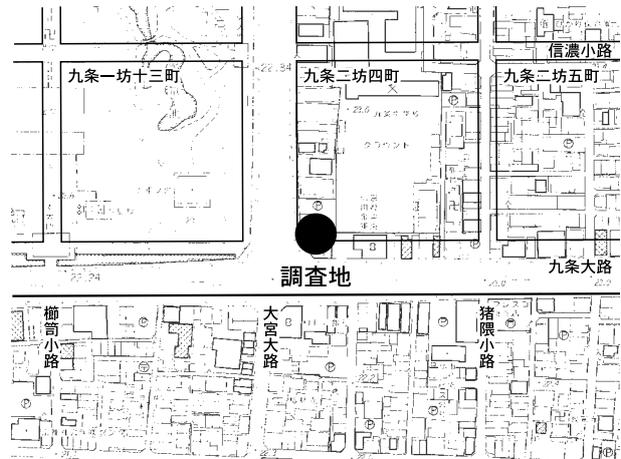


図18 調査位置図(1:5,000)

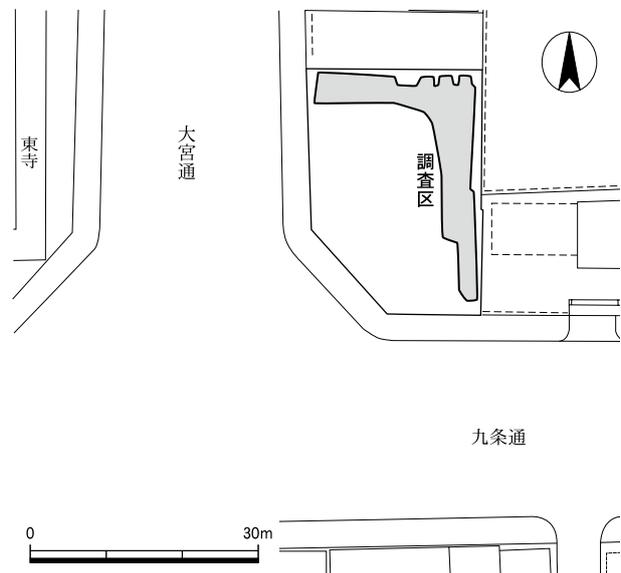


図19 調査区配置図(1:1,000)

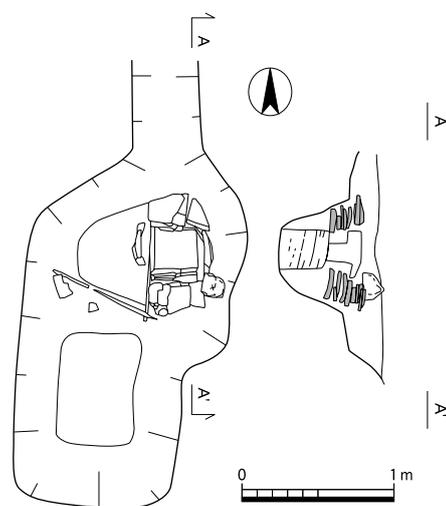


図20 SK8実測図(1:50)

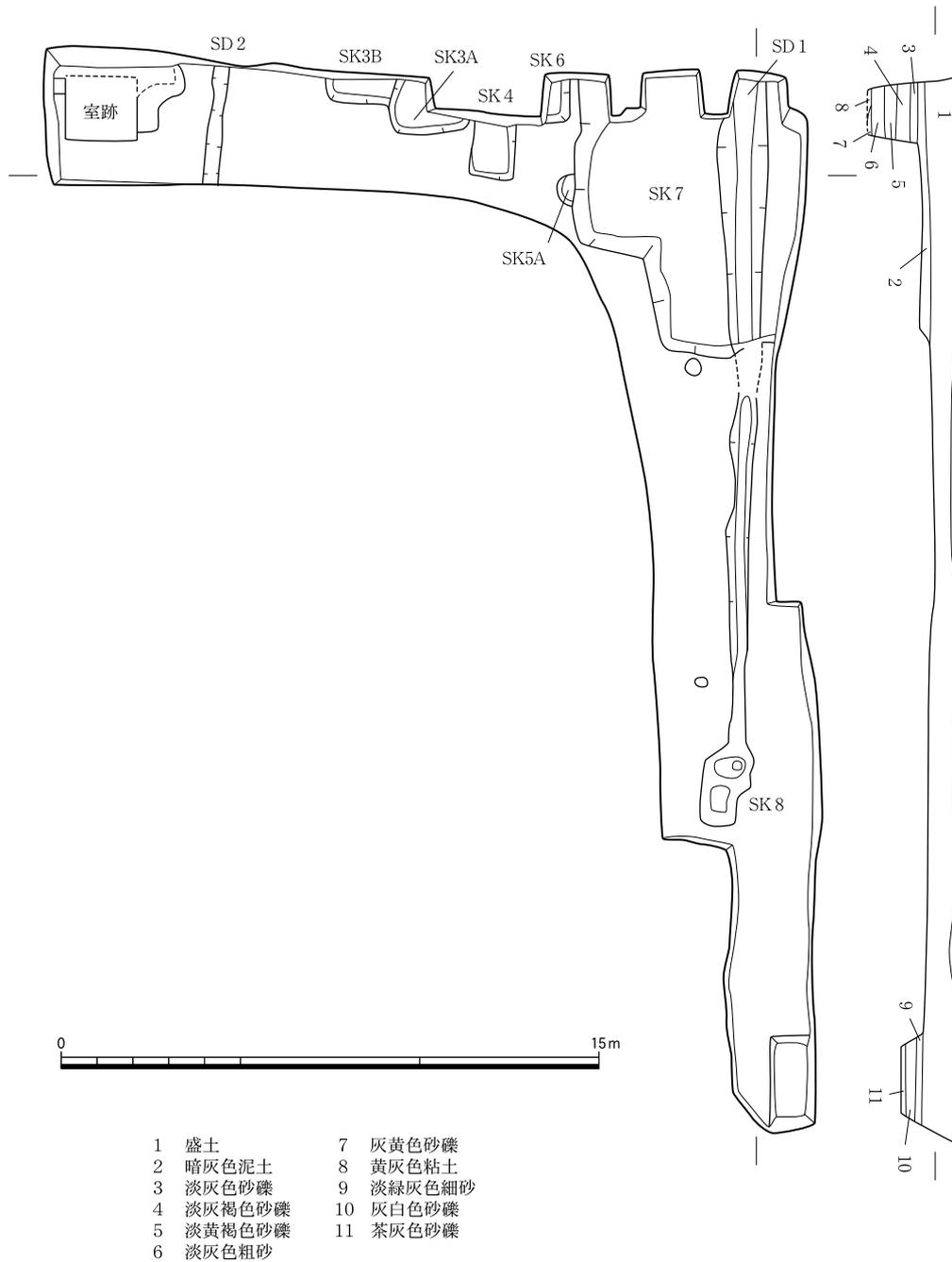


図 21 遺構実測図 (1 : 200)

7 平安京右京四條四坊十二町

経過 右京区山ノ内池尻町でショッピングセンター新築工事に伴い、発掘調査を実施した。

調査地は平安京右京四條四坊十二町の東部中央付近に位置する。『拾芥抄』『西京図』によれば淳和院の所領とされている。

調査は3箇所のトレンチを設定し、地表下1.2～1.3 mの地山上面まで重機掘削し、調査を開始した。

遺構・遺物 基本層序は盛土(0.9 m)、耕土(0.2 m)、床土(0.1 m)、淡茶灰色粘質土(0.2 m)、黄色シルト・黒灰色砂礫の地山となる。

検出した遺構は幅0.35～0.6 m、深さ0.15～0.2 mの南北方向の溝状遺構を数条検出した。埋土は暗茶灰色粘質土で中世の土師器片が出土した。

小結 今回の調査では平安時代の遺構、遺物は検出されなかった。調査区の南半部では、湿地状の堆積を確認したが、遺物は出土していない。

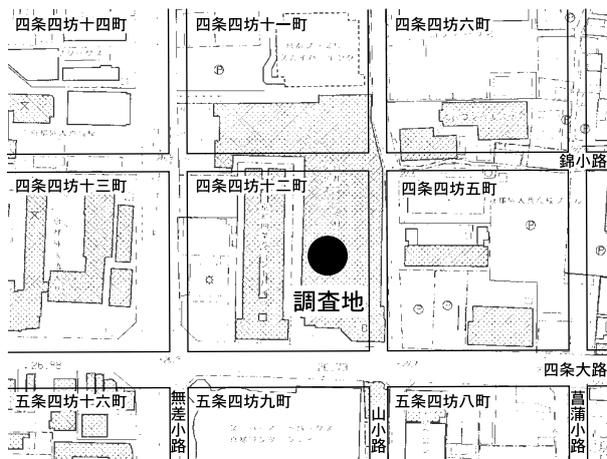


図22 調査位置図(1:5,000)

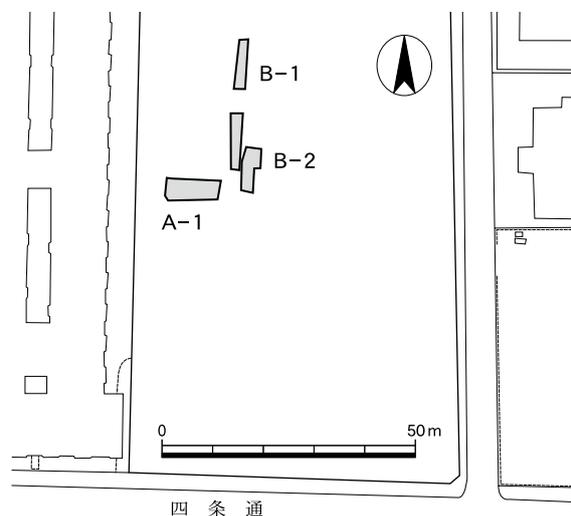


図23 調査区配置図(1:1,500)

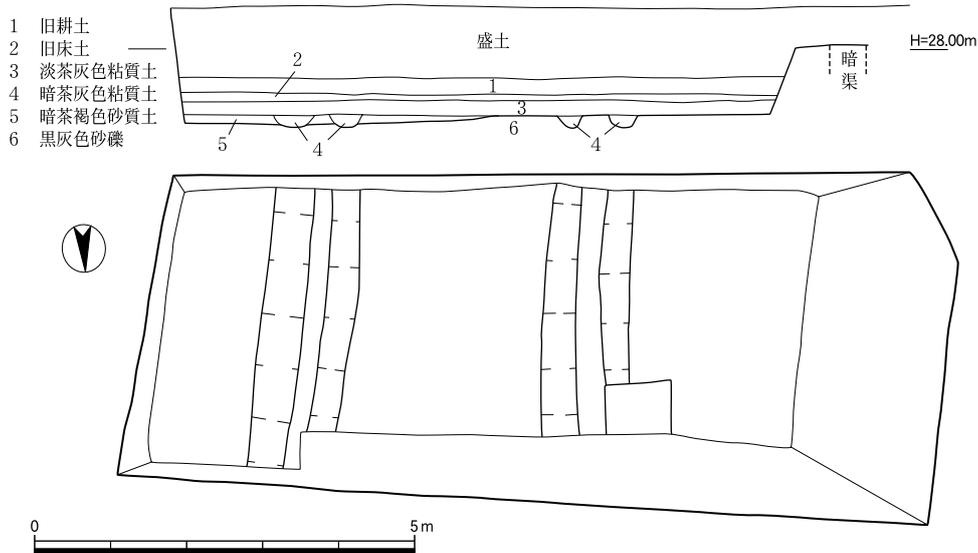


図24 A-1トレンチ遺構実測図(1:100)

8 平安京右京六条二坊八町 (図版3)

経過 中京区壬生高田町の京都市立病院敷地内に公害センターが建設されることになり、発掘調査を実施した。調査地は平安京右京六条二坊八町の東端中央付近に位置する。『拾芥抄』『西京図』によると「小泉荘」であったとされる。

調査区は11 m×30 mのトレンチを設定し、地表下1.0 mの整地層上面まで重機掘削し、以下手作業で調査を開始した。なお調査の進捗状況に応じて東側・南側へ拡張した。

遺構・遺物 基本層序は盛土(0.8 m)、暗灰色泥土(旧耕土0.1 m)、第4層淡黄灰色砂泥(0.1 m)、第5層灰黄色砂泥(0.1～0.2 m)、茶褐色砂泥・黄褐色泥砂の地山となる。

灰黄色砂泥層上面(第1面)で平安時代から近世の遺構を検出した。平安時代の遺構としては南北方向の溝2条、柵2列、建物跡、土壌などがある。地山上面(第2面)で流路を検出した。

第1面の遺構 SD 2はA・B 2時期ある。Aは幅1.4～1.6 m、深さ0.5～0.6 mの南北溝で、埋土はおおまかに3層に分層できる。遺物は平安時代前期の土師器・須恵器・緑釉陶器などが出土した。BはAに先行する南北溝で重複している。幅2.4～2.6 m、深さ0.5 mを測り、埋土は3層に分層できる。平安時代前期に属する遺物が出土している。SD 2は位置からみて西鞠負小路東側溝にあたる。

SD 8は幅1.6 m、深さ0.4～0.5 mの南北溝で、SD 2から西へ8 mのところと位置し、埋土は3層に分層できる。西鞠負小路西側溝にあたる。平安時代前期9世紀後半から10世紀前半代の遺物が出土した。

SA 1は、SD 2の心より東へ2.65 mのところと検出した南北方向の柱穴列である。東築地に相当する。

SA 2は、SD 8の心より西へ2.55 mのところと検出した南北方向の柱穴列である。東のSA 1に対応する位置にあたり、西築地に相当する。南側部

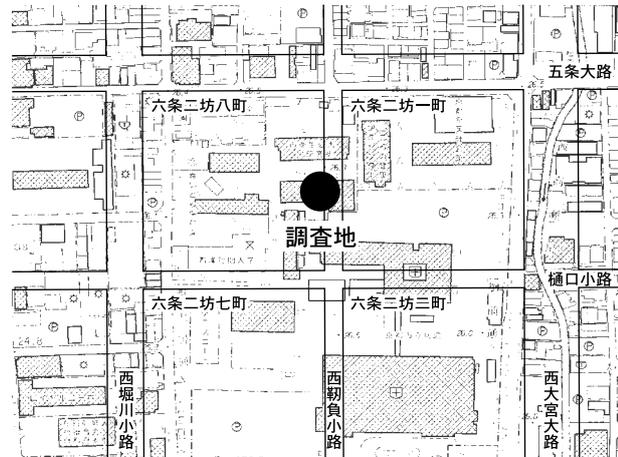


図25 調査位置図 (1:5,000)

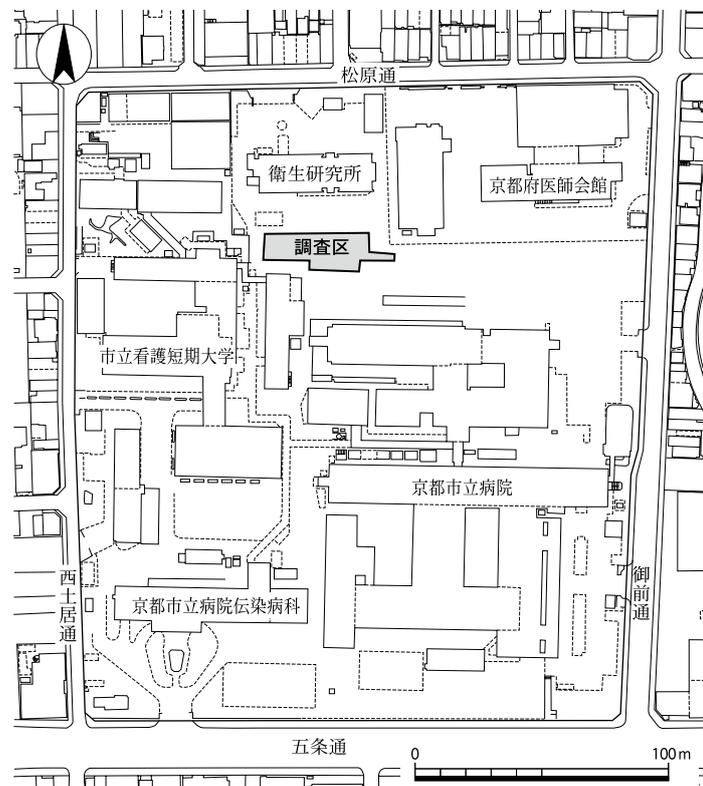


図26 調査区配置図 (1:3,000)

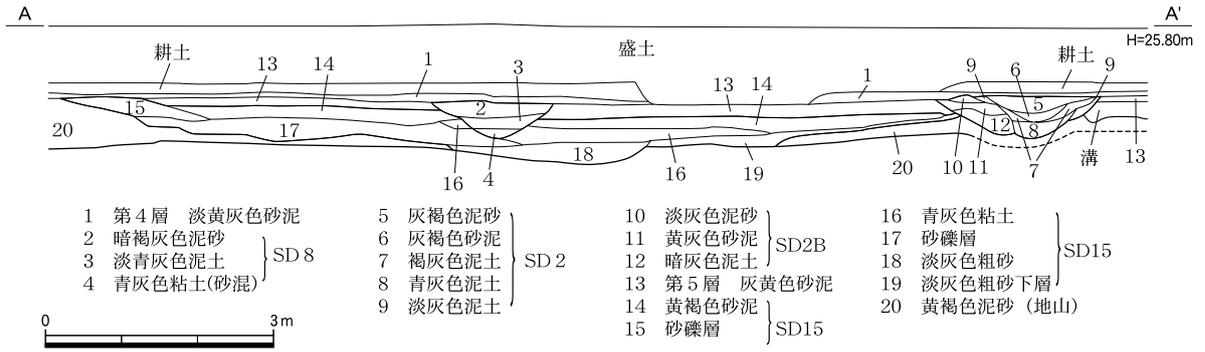


图 27 北壁断面图 (1:100)

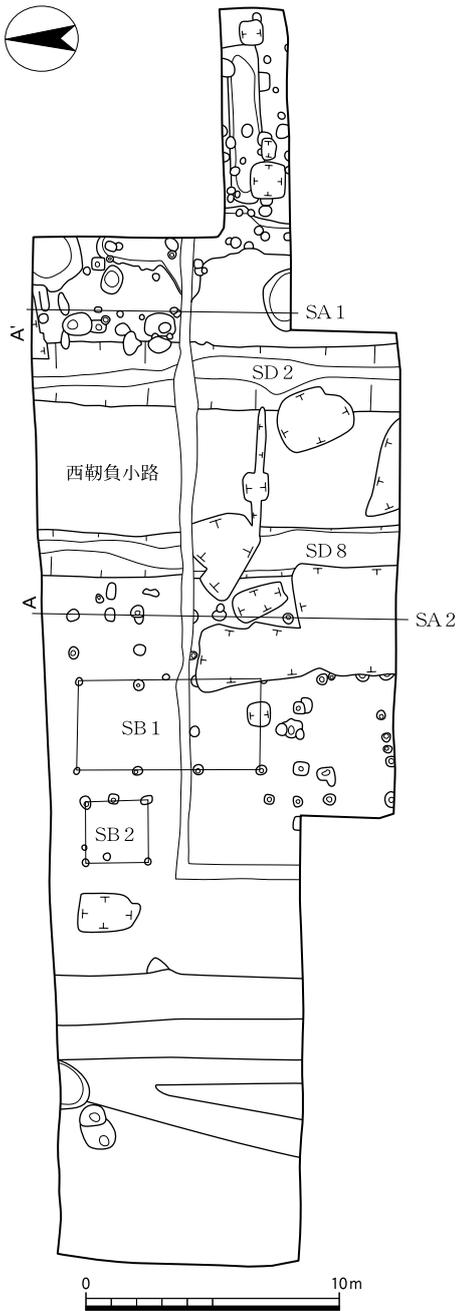


图 28 第1面遺構平面图 (1:300)

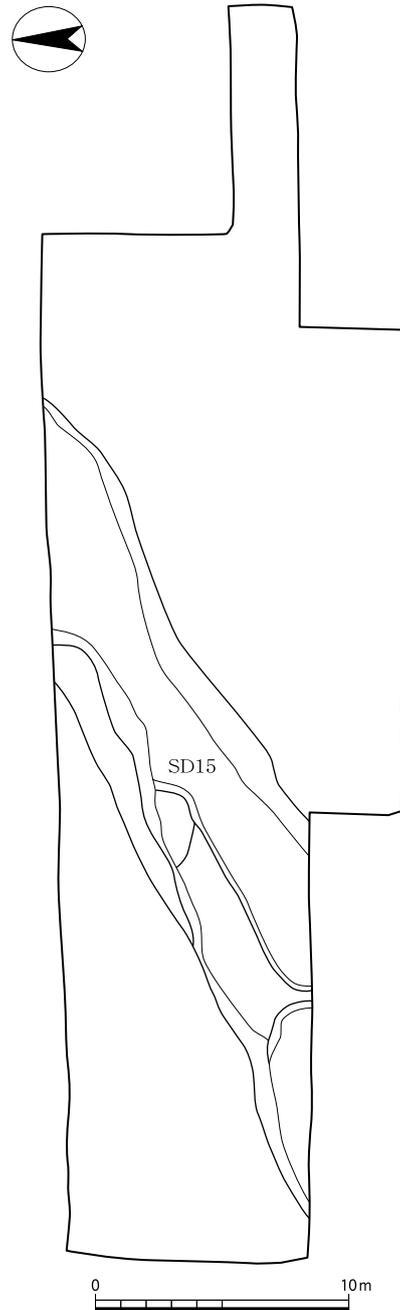


图 29 第2面遺構平面图 (1:300)

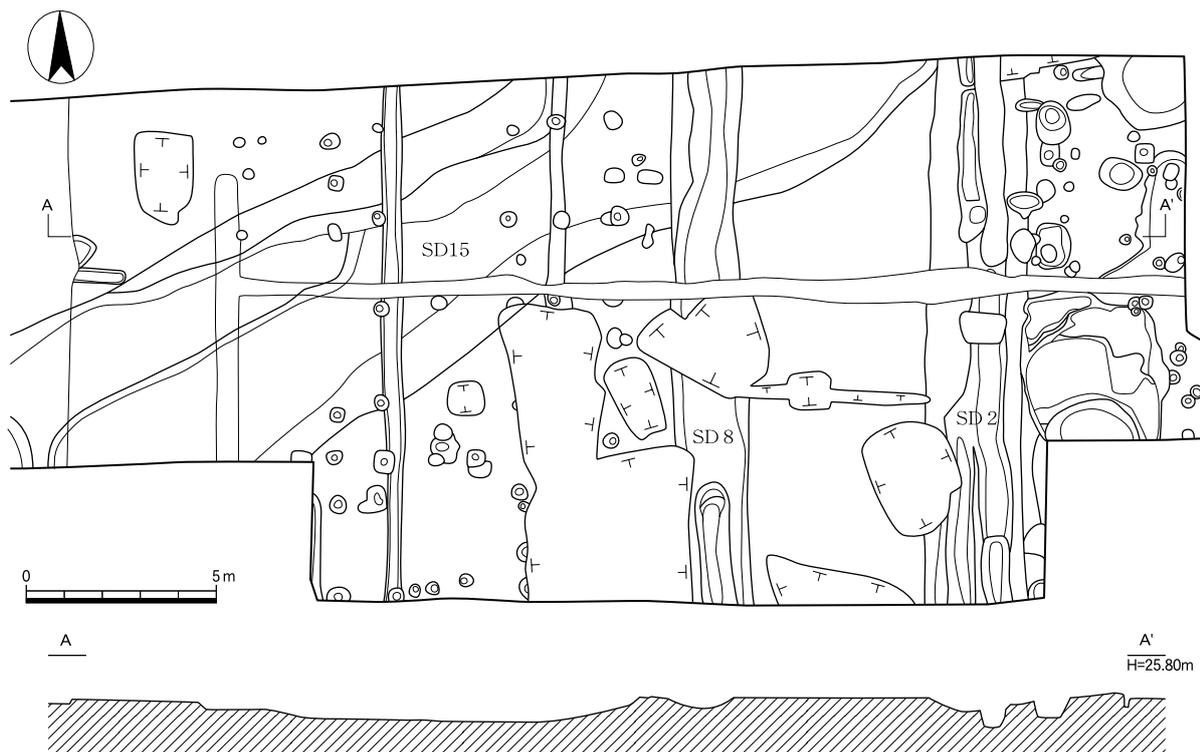


図 30 遺構実測図 (1:200)

分は攪乱を受けており不明であるが3間分を検出した。その柱間は北から9尺、10尺、9尺である。

SA 1 東側 (一町内) では、径 0.3 ~ 0.5 m の円形を呈する柱穴群や、一辺 0.6 m 前後の方形で東西方向に並ぶ柱穴列などが検出されており、建物が想定されるが調査面積が狭く復元するまでには至らなかった。

SA 2 西側 (八町内) では、掘立柱建物 2 棟を検出した。柱穴の掘形や大きさ、深さがまちまちであり、根石を持つものや、焼土を含むものなどがある。SB 1 は 1 間 × 3 間の南北棟の掘立柱建物。柱間は南北 2.4 m (8 尺) 等間、東西 3.6 m (12 尺)。SB 2 は 1 間 × 1 間の掘立柱建物。柱間は 2.4 m (8 尺) で、埋土に焼土を含む。

第 2 面の遺構 整地層である第 5 層灰黄色砂泥層を掘り下げた茶褐色砂泥層上面で、北東方向から南西方向に流れる幅 5.0 ~ 6.5 m、深さ 0.5 ~ 0.7 m の流路跡 (SD15) を検出した。埋土はおおまかに上層 (第 6 層 黄褐色砂泥)、下層 (第 7 層 淡灰色粗砂) に分層できる。

遺物は、古墳時代から近世にわたる各時代の遺物が出土した。その内訳は、土器類、瓦類、金属製品などがある。平安時代前期に属する土器類の出土が最も多く、そのほかは少ない。

小結 今回の調査では、平安時代前期の西鞠負小路と下層に古墳時代の流路跡を検出した。西鞠負小路については、両側溝、築地とみられる柱穴列を検出し、道路の両端まで確認し得た点で特筆できる。ここで得られた西鞠負小路の規模は路面幅 5.1 m、両側溝の心々距離 6.9 m、柱穴列間の心々距離 12 m である。

古墳時代の遺構は流路跡しか検出されていないが、底部付近から古墳時代前期の土師器甕・高杯の完形品が出土している。調査地周辺に同時代の遺跡の存在が想定される。

Ⅲ 鳥羽離宮跡

9 鳥羽離宮跡 21・22 次調査

経過 調査地は南北に通る区画整理道路予定地である。9次・10次調査により検出された舟入り遺構の北方で白河天皇陵と北向山不動院に挟まれた地であり、東殿の一部である。4区に分けて調査した。

遺構・遺物 21次A区 検出した遺構は建物跡、溝、土壇などがある。平安時代後期の建物跡と推定される礎石建物4棟を検出した。調査区西端で鎌倉時代から室町時代まで利用された南北方向の溝を検出した。

21次B区 検出した遺構は建物跡、溝、土師器溜などがある。12次・20次調査で確認されている室町時代から桃山時代の東西方向の溝がさらに西へ延びることを確認した。中世においては当地域に、これらの溝による区画のあったことが明らかになった。この溝から木製仏像・塔婆・漆器などの木製品、土器などの遺物が多量に出土した。

21次C区 明確な遺構は検出されなかった。

22次 幅6mの取付道路予定地である。安楽寿院十二ヶ院のうちの大善院が推定される位置である。江戸時代の遺構面に大小の礎石を十数個検出した。これより下層でも遺構面を確認した。最下層の遺構としては、バラス層が北東から南西に傾斜する落込みを検出した。青灰色粘土層、腐植土層が堆積し、この中より平安時代後期の瓦、土器が出土した。

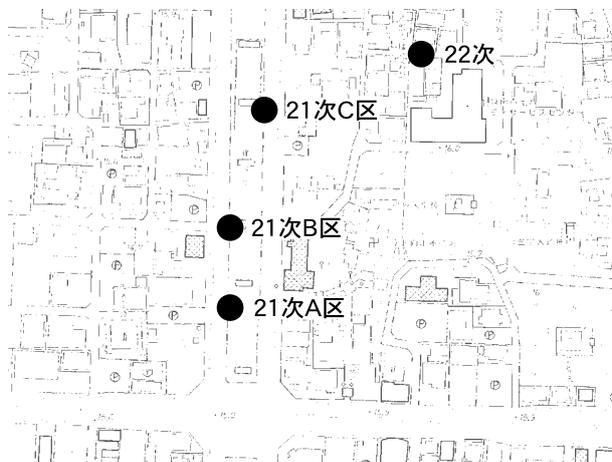


図 31 調査位置図 (1 : 5,000)

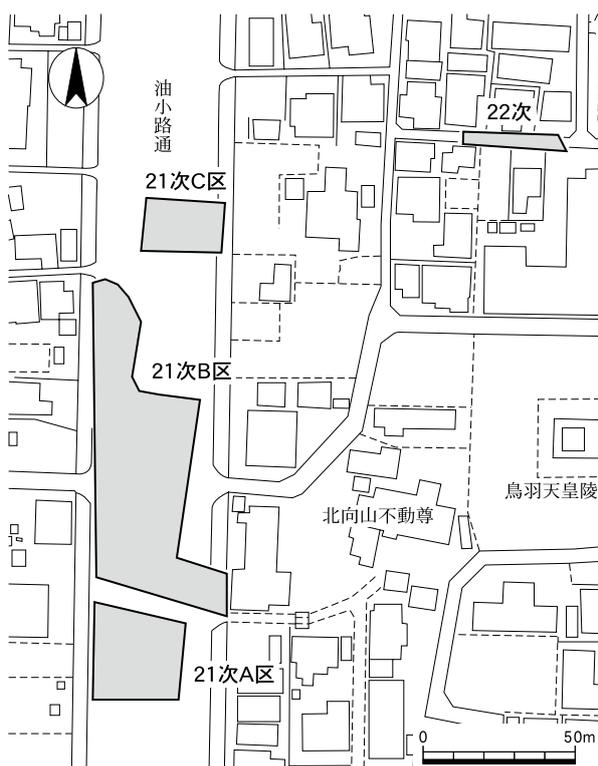


図 32 調査区配置図 (1 : 2,500)

『鳥羽離宮跡』区画整理道路予定地内発掘調査概要 昭和 51 年度 1977 年報告

10 鳥羽離宮跡 23～28次調査

経過 国庫補助による発掘調査である。調査面積が狭いこともあって、明確な遺構は検出されなかった。調査地は8箇所である。23～27次の7箇所は東殿推定地の周囲、28次は北殿ないしは田中殿の一部に推定できる位置に当たる。

遺構・遺物 23次 地表下1.5mで室町時代から桃山時代の落込みを検出したが、以下は自然堆積である。

24次A区 平安時代後期の盛土が認められ南に下がる湿地状の堆積層を検出した。

24次B区 明確な遺構は検出されなかった。

25次 攪乱が多く明確な遺構は検出されなかった。

26次 安楽寿院十二ヶ院の大善院のものと思われる礎石建物を検出した。平安時代後期では北東から南西に傾斜する湿地状の堆積が認められ、平安時代後期の瓦、土器が出土した。

27次A区・B区 従来の付近の調査では耕土層下に青灰色粘土層が厚く堆積する地域である。調査の結果、ここでも耕土層下に青灰色粘土層が検出された。しかし、この堆積が従来のものかは決め手となるような遺物は出土しなかった。

28次 調査では、少量の土器片が出土したが耕土下0.5mで検出した砂礫層が、遺構と考えられるものかは判断できなかった。

小結 今年度は8箇所を調査を実施した。各々の遺構の有無、遺物出土量には差があったものの、その関係を知ることができた。東殿については7箇所を調査し、その範囲も次第に明らかになりつつあり今後の調査を期待したい。

『鳥羽離宮跡発掘調査概要』1977年報告



図33 調査位置図 (1:5,000)

IV 中臣遺跡

11 中臣遺跡7次調査(図版4)

経過・遺構・遺物 A区 調査地は1971年に調査した方形周溝墓や古墳の基底部を検出した南の斜面に位置する水田である。分譲住宅建築に伴い発掘調査を実施した。検出した遺構は弥生時代末期の竪穴住居1棟(10号住居)、古墳時代後期の竪穴住居9棟(1~9号住居)、溝2条、土壇6基、粘土溜状遺構3基である。

B区 調査地はA区の東、一段低い水田である。分譲住宅建設に伴い発掘調査を実施した。検出した遺構は古墳時代後期の竪穴住居2棟(11・12号住居)である。11号住居は重複しているが、柱穴の配置およびカマドの痕跡から建て替えを行っていると考えられる。

C区 調査地は1975年までの調査地区の南、1976年調査道路に広がる水田と、栗栖野丘陵先端から東側の水田である。土地区画道路建設に伴い発掘調査を実施した。調査は道路幅に沿って4mから6m幅のトレンチを設定し、道路ごとにC-1~C-5トレンチとした。C-1~C-4トレンチは遺跡の中心部と想定されたがC-1トレンチで溝(SD2)が1条検出されただけである。

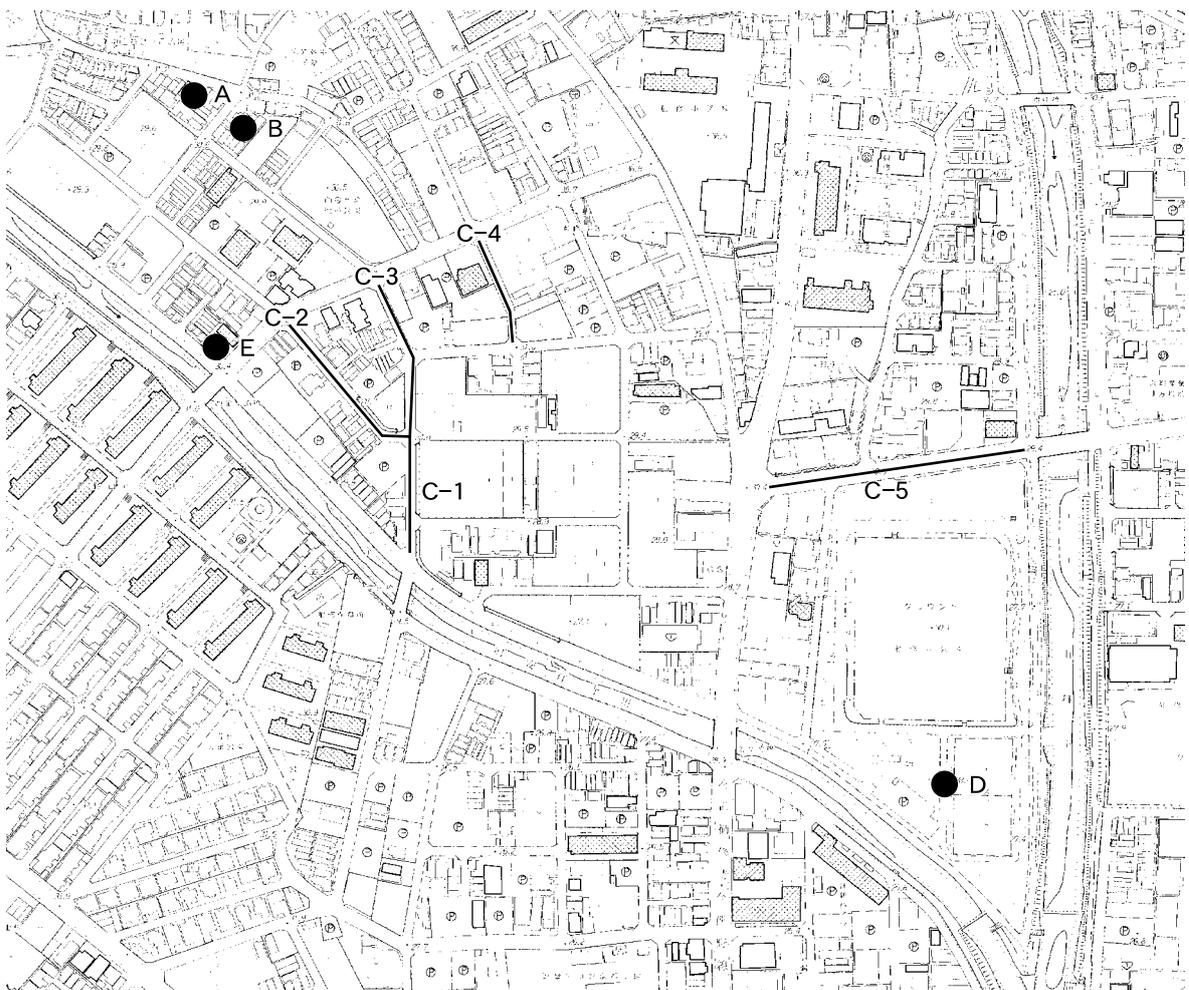


図34 調査位置図(1:5,000)

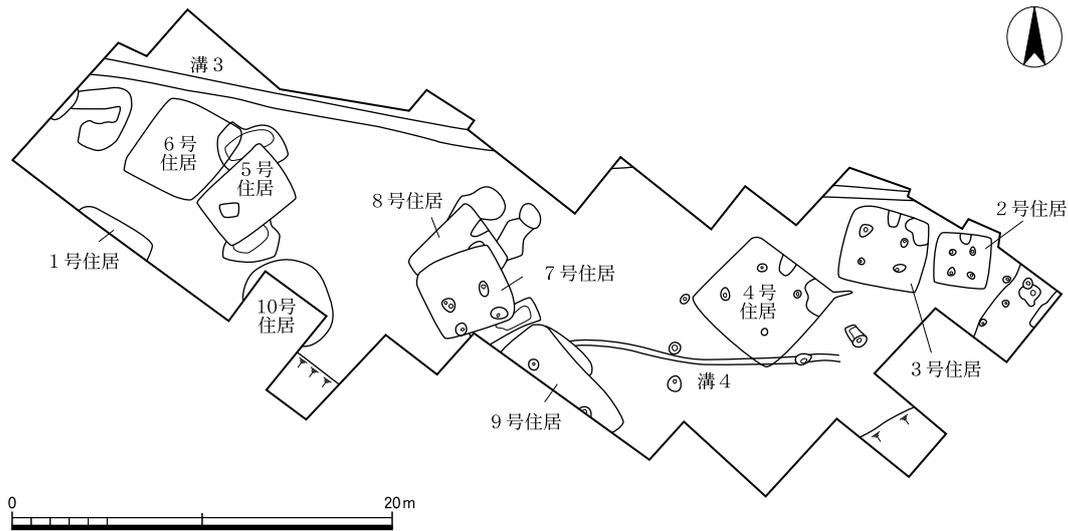


図 35 A区遺構平面図 (1 : 400)

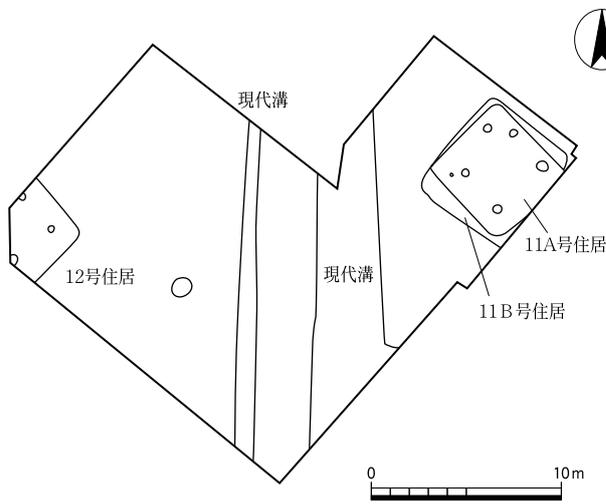


図 36 B区遺構平面図 (1 : 400)

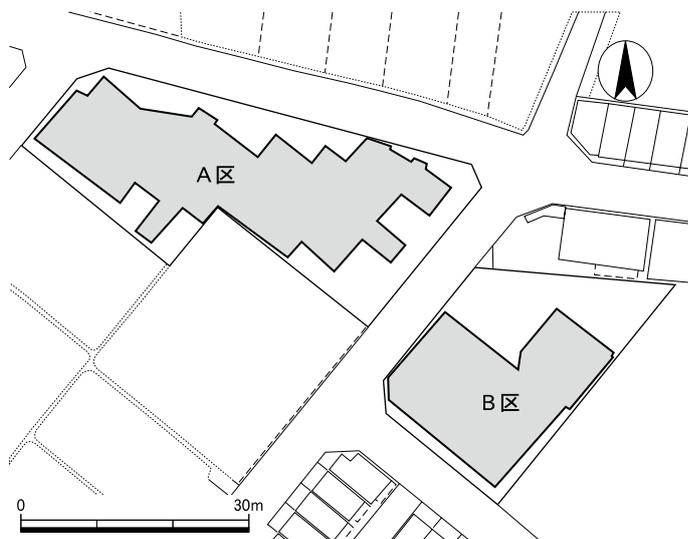


図 37 調査区配置図 (1 : 1,000)

SD 2は幅 0.6 m、深さ 0.2 mを測り、手焙土器が 2 個体出土した。C - 5 トレンチは山科川西岸から丘陵先端東側に至る水田である。弥生時代末期の竪穴住居 (13 号住居) 1 棟と古墳時代中期の竪穴住居 (14 号住居)、溝、掘立柱建物を検出した。

D区 勸修寺公園予定地の予備調査である。調査地は旧安祥寺川の北側、山科川の西側で両河川の合流する三角地帯である。ボーリングによる土層調査と必要に応じテストピットを設け、土層観察と遺物採取を行った。山科川東岸約 30 m、旧安祥寺川北岸約 30 mは氾濫で遺構は破壊されているが、黒褐色泥砂・灰褐色泥砂などの有機質土層が堆積しているところは、これまでの発掘調査の成果などから遺構の存在が推定される。

E区 調査地は、中臣遺跡の南西に位置し、民家新築に先立つ調査である。西側は旧安祥寺川に接し、現況は水田である。調査面積は 120 m²である。

10～20 cmの耕土層下に区画整理による盛土層があり、その下層に暗褐色砂泥層が堆積する。暗褐色砂泥層の下に黄灰色混礫砂泥層があり、地山である。暗褐色砂泥層からは少量であるが、中世の土師器・瓦器が出土している。調査の結果、顕著な遺構の検出はなく、また、少量の遺物が出土したに留まった。

小結 本年度の調査で検出した遺構は、弥生時代末期の竪穴住居2棟、古墳時代中期の竪穴住居1棟、古墳時代後期の竪穴住居11棟、掘立柱建物1棟、溝状遺構、土壇、粘土溜状遺構である。

今年度までに確認した中臣遺跡における竪穴住居は総数67棟である。時期別軒数は弥生時代末期34棟、古墳時代中期2棟、古墳時代後期29棟、不明2棟である。掘立柱建物は14棟となった。

中臣遺跡の範囲はC-5トレンチの調査によって山科川に及ぶことが判明した。したがって調査によって明らかになった範囲は、洛東自動車学校の南側から旧安祥寺川東岸の水田地帯を栗栖野丘陵を带状にめぐり山科川に至る範囲と、折上神社内古墳、宮道烈子墓とされている古墳などの「中臣十三塚」古墳群を含めた地域と推定される。

『中臣遺跡 1976』『中臣遺跡発掘調査概要』『京都市埋蔵文化財研究所概報集 1977 - I』1977年報告

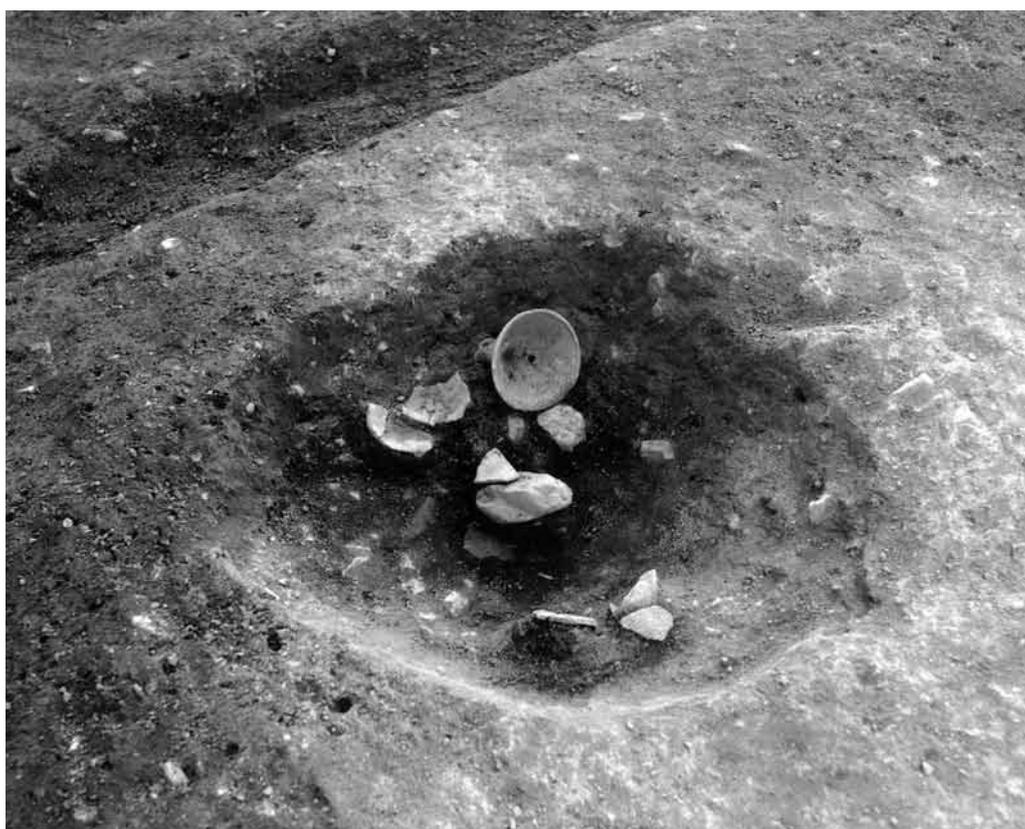


図 38 C-5区土器出土状況（北から）

V 長岡京跡

12 長岡京左京三条三坊

経過 伏見区羽東師菱川町に京都市立神川小学校分校・同伏見中学校分校が新設されることになった。当該地は長岡京域内にあることが明白なため発掘調査を実施した。

長岡京跡における調査では左京第9次調査となる。

遺構 調査前まで水田として利用されていたため東へ行くにしたがって下降し、段差がある。基本層序は耕土 (0.15 m)、床土 (0.25 m)、3層灰色粘土 (0.1 m)、4層灰色粘土 (0.06 m)、5層黒色粘土 (0.1 m)、緑灰色粘土となる。

検出した遺構の大半は1トレンチに集中し、2トレンチ・3トレンチではわずかである。遺構は長岡京期を中心とするものが最も多く、古墳時代後期の道路や溝などの遺構、平安時代中期の川がある。長岡京期の遺構は掘立柱建物11棟、溝8条、柵6列、低湿地などがあり、重複関係から新旧4期のグループが想定できる。

遺物 出土遺物はその大半は土器類で占められ、製塩土器・瓦類も多い。土馬・石器類もある。時期別では長岡京期に属するものが圧倒的に多く、古墳時代後期・平安時代中期のものも多い。弥生時代中期や鎌倉時代前半の遺物も少量出土している。

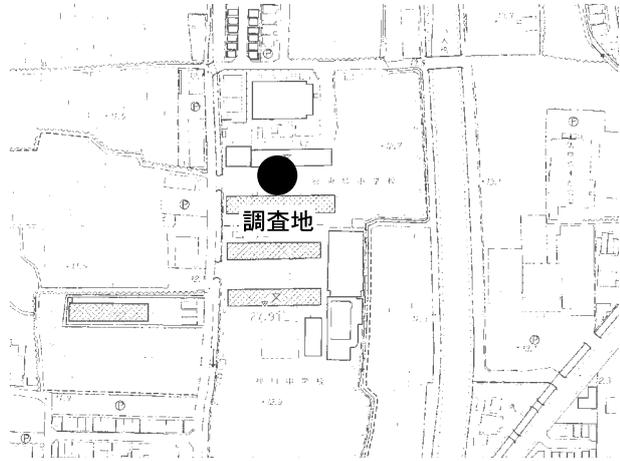


図39 調査位置図 (1 : 5,000)

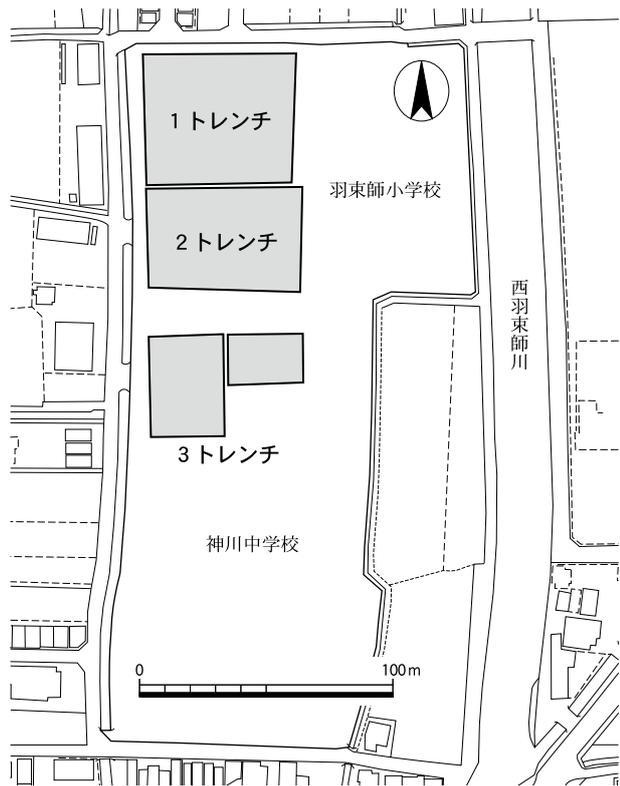


図40 調査区配置図 (1 : 3,000)

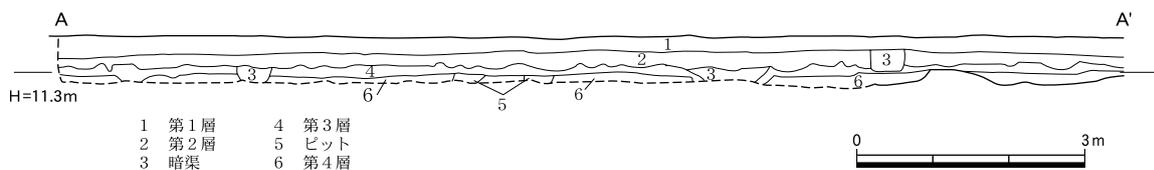


図41 1トレンチ中央セクション断面図 (1 : 100)

長岡京期では、緑釉単彩陶器の羽釜・火舎が出土している。

小結 今回の調査では、道路の側溝や宅地内の地割的性格の溝と宅地内の建物跡を検出した。1トレンチ北半で検出した東西溝SD 1～4は、左京第2次調査で検出された東西溝SD52とSD54と一直線をなし、両溝群が同一道路に関連するものである事が指摘できる。

今日まで長岡京の調査は、宮域内の調査が中心で、京域内の調査はほとんど行われておらず、条坊復元に関連する有効な遺構もほとんど発見されていない。今回の調査で条坊復元の起点ともいべき道路跡を検出したことは、大きな成果である。

『長岡京跡発掘調査報告』京都市埋蔵文化財研究所調査報告-II 1977年報告

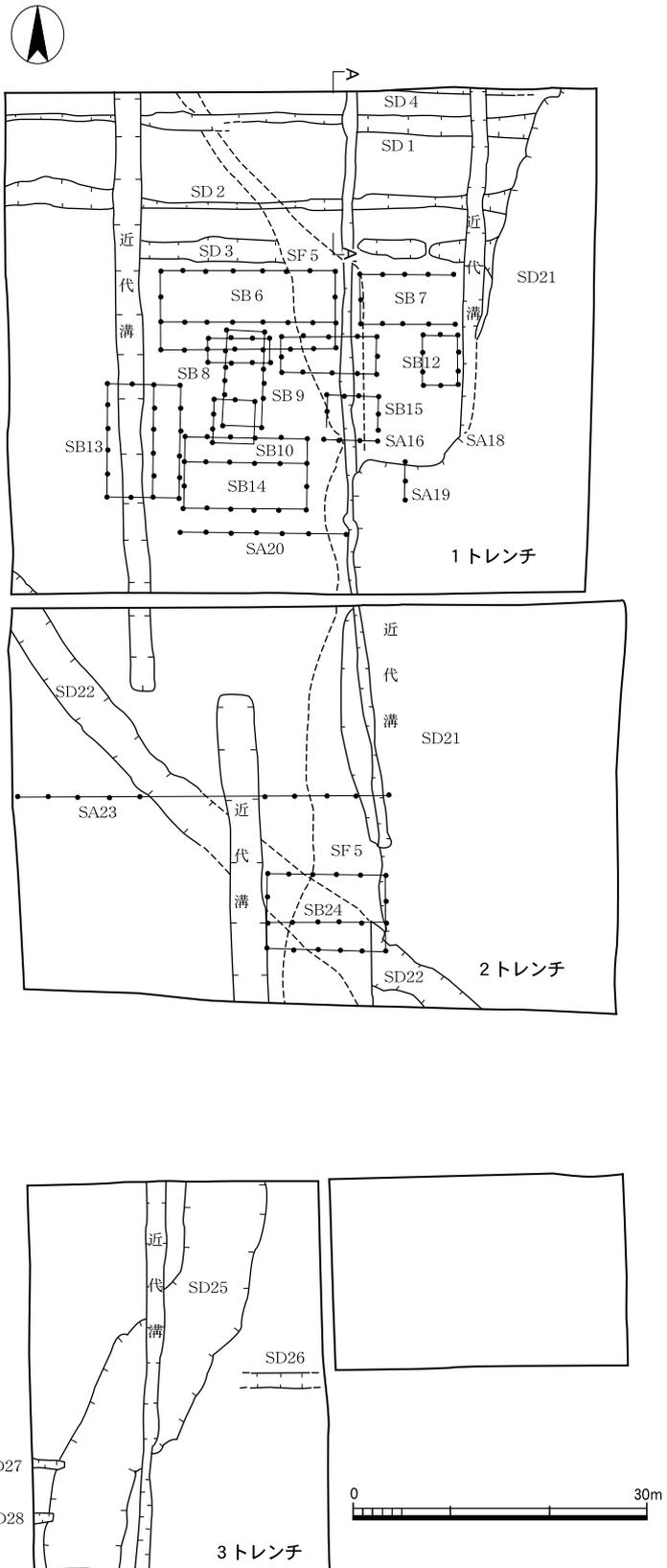


図 42 遺構平面図 (1 : 750)

VI その他の遺跡

13 北野廃寺

経過 北区北野白梅町で京都信用金庫北野白梅町支店の改築工事に伴い、発掘調査を実施した。調査地は京都市内で最古の寺院跡の一つである北野廃寺に推定される遺跡指定地域である。

遺構・遺物 基本層序は第1層盛土(0.3～0.5 m)、第2層茶褐色泥土(0.25 m)、第3層黒褐色泥土(0.2～0.6 m)、黄灰色粘土の地山となる。

検出した遺構と土層の関係から遺構の時期は大きく二つに区分できる。第2層茶褐色泥土上面では、室町時代の建物(3棟)、柵列(2列)、南北溝1条、土壇9基、落込み、ピットなどを検出した。

第3層黒褐色泥土上面では古墳時代後期・飛鳥時代から奈良時代・平安時代の遺構が同一面上で複雑に切り合った状況で検出された。平安時代の遺構は溝8条、土壇12基などである。飛鳥時代から奈良時代の遺構は創建時の遺構と思われる築地状遺構とこれに伴う南北溝1条、その他東西溝1条、土壇3基などである。古墳時代後期ではカマドをもつ竪穴住居1棟を検出した。出土した遺物は古墳時代後期・飛鳥時代から室町時代に至る土器類・瓦埴類・鉄製品などがあり、多種多量である。

小結 古墳時代から室町時代に至る各時期の遺構を検出した。これらの遺構から出土した遺物はその重複関係や層位関係により、7世紀および9世紀から10世紀前半における土器変遷過程を把握するための重要な手がかりを得るものとなった。

『北野廃寺発掘調査報告書』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第7冊 1983年報告

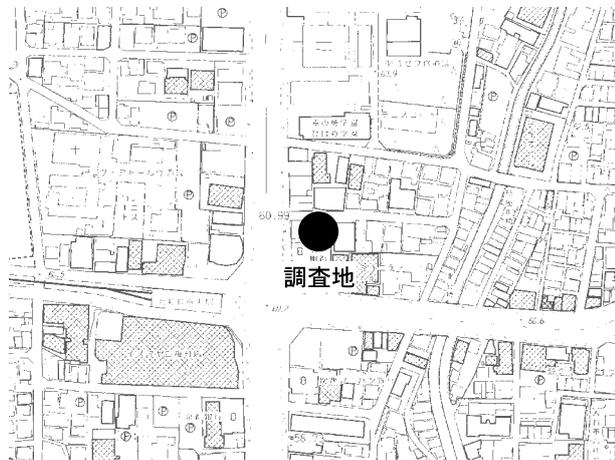


図43 調査位置図(1:5,000)

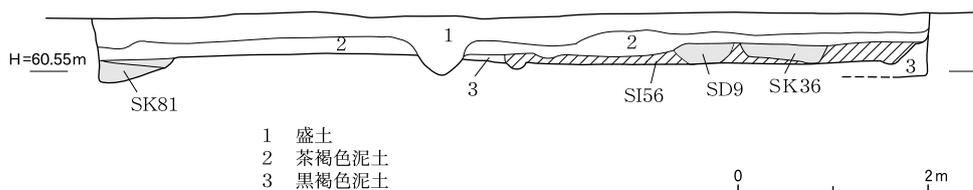


図44 西壁断面図(1:80)

14 南禅寺境内

経過 南禅寺収蔵庫増築工事に伴い発掘調査を実施した。

遺構・遺物 基本層序は盛土 (0.2 ~ 0.4 m)、暗黄褐色泥砂 (0.5 m)、緑褐色泥砂 (0.2 m)、暗茶褐色混礫泥砂 (0.4 m)、淡黄灰色粗砂 (0.2 m)、茶褐色砂礫となる。

暗茶褐色混礫泥砂上面で検出した第1面では石列 (SX 1)、道路状遺構 (SF 1)、土壇 2基 (SK 1・2)、溝 (SD 1) がある。淡黄灰色粗砂上面で検出した第2面では庭園状遺構 (SG 1) がありその中で敷石が密集する地点が3箇所 (SX 2~4) 検出されており、他に溝が2条 (SD 2・3) ある。

第1面より上の堆積土は元禄16年(1703)に南禅院が再興された時に工事によって掘り出された瓦・敷瓦(埴)などを土砂とともに川べりに廃棄したという記録が残っており、その整地と考えられる。またその下の堆積土もほぼ水平に堆積しているが第2面までの各層に含まれる遺物は層に関係なく接合し、各層の時期差はなく整地のために客土されたものであろう。庭園の埋土である緑灰色粘砂層より巴文軒丸瓦、表面に縄目叩きを有する平瓦が出土していることから鎌倉時代から室町時代の間に存在していたと考えられる。

小結 今回の調査地点は法堂と南禅院の間の緩傾斜地であり、はっきりとした建物の存在は想定されていない。

南禅寺は明德四年(1393)、文安四年(1447)、応仁元年(1467)に大火にあつてその度再建が繰り返されているが、応永二十年(1413)に書かれた「天下南禅寺記」によると調査地に当たると考えられる施設は次の二つであり簡単な位置が示されている。

亭子(廊の南を東行、長廊赤欄橋)一亭の北廊とは仏殿と山門を結ぶ回廊であるから、調査地がここに当たる。調査では礎石などの建物遺構は検出されなかったが、建物と不可分な関係にあ

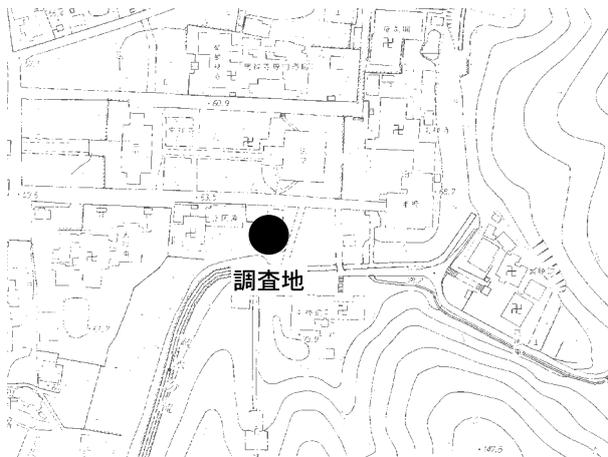


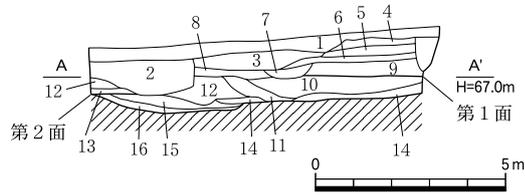
図45 調査位置図(1:5,000)



図46 調査区配置図(1:1,000)

る庭園遺構が検出されたことからあずま屋的な建物があったと考えられる。南禅寺伽藍の空白地帯を埋めることができたことは今回の調査による成果である。

『京都市埋蔵文化財研究所概報集 1977- I』 1977 年報告



- | | |
|----------|-----------------|
| 1 盛土 | 9 黄緑色砂礫 |
| 2 SK 2 | 10 暗茶褐色混礫泥砂 |
| 3 暗黄褐色泥砂 | 11 淡茶褐色泥砂 |
| 4 黄褐色泥砂 | 12 黄褐色泥砂 |
| 5 暗赤褐色泥砂 | 13 淡黄灰色泥砂 |
| 6 暗緑灰色泥砂 | 14 緑灰色粘砂 (SG 1) |
| 7 緑灰色泥砂 | 15 淡黄灰色粗砂 |
| 8 緑褐色泥砂 | 16 茶褐色砂礫 |

図 47 中央部断面図 (1 : 200)

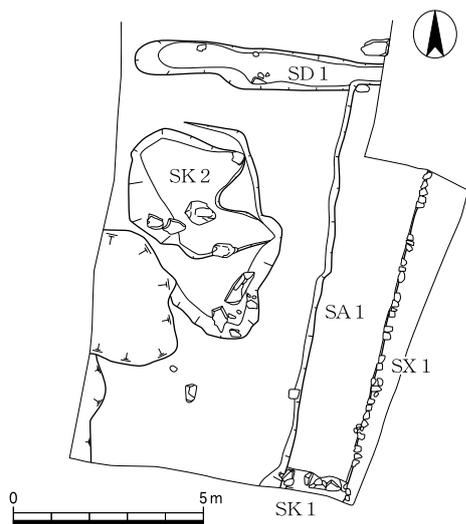


図 48 第1面遺構平面図 (1 : 200)

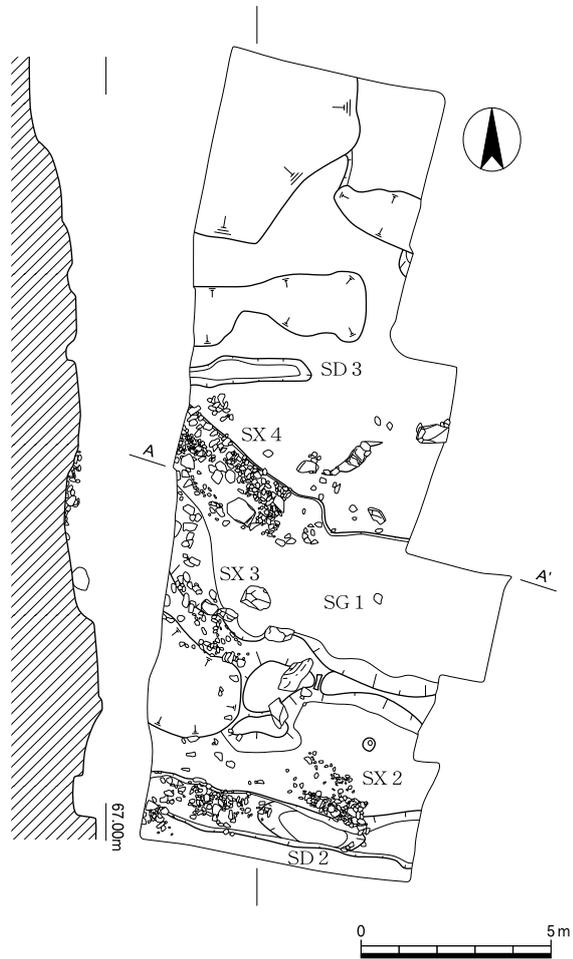


図 49 第2面遺構実測図 (1 : 200)

15 仁和寺御所跡

経過 右京区御室大内町に所在する仁和寺境内で御室会館の新築が計画された。仁和寺境内は「仁和寺御所跡」として史跡に指定されており、発掘調査を実施した。

遺構 調査地は北部が高く段をなし、南部は低く約2mの比高差がある。この差は仁和寺の創建以前の自然地形や高低差のある遺構の性格に起因するもので、平安時代後期から中世の遺構の密度や近世の再建に伴う整地土層の厚さとも関係している。

調査ではトレンチ全域で遺構を2面にわたって検出したが、北トレンチは各時代の土層が重なり5面の遺構面を検出した。

近世から近代の遺構（第1面）仁和寺再建に伴う大規模な整地層の上に成立している。溝、池、井戸、土壇、柱穴、礎石などを検出した。

平安時代後期から中世の遺構（第2・3面）

北トレンチに限定され、土塁、築地、溝、土壇などを検出した。南部では遺構が検出されず、南部の低地は未利用の空間であった。

平安時代中期の遺構（第4・5面） 掘立柱建物（SB26）、雨落溝（SD26）、土塁（SA15）、溝（SD30・33・34）などが中心である。SB26は桁行12間以上、梁間4間の南北棟建物である。SB26を中心に北部は土塁を築き、建物の周辺には雨落溝を巡らす。

遺物 出土した遺物は、整理箱に530箱あるが、その大半は瓦類であり土器類などは少ない。時代別では、平安時代中期の遺物が最も多く瓦類を中心に土器、陶磁器、金属製品などがある。

小結 今回の調査では創建から応仁の乱までの遺構面と、寛永の再建から現代までの遺構面を検出した。寺域内では今回の調査を含め、3回の発掘調査と1回の立会調査を実施している。円堂院に関連する調査は1962年の1次調査と今回の調査があり、1次調査では八角円堂の南辺・



図50 調査位置図（1：5,000）

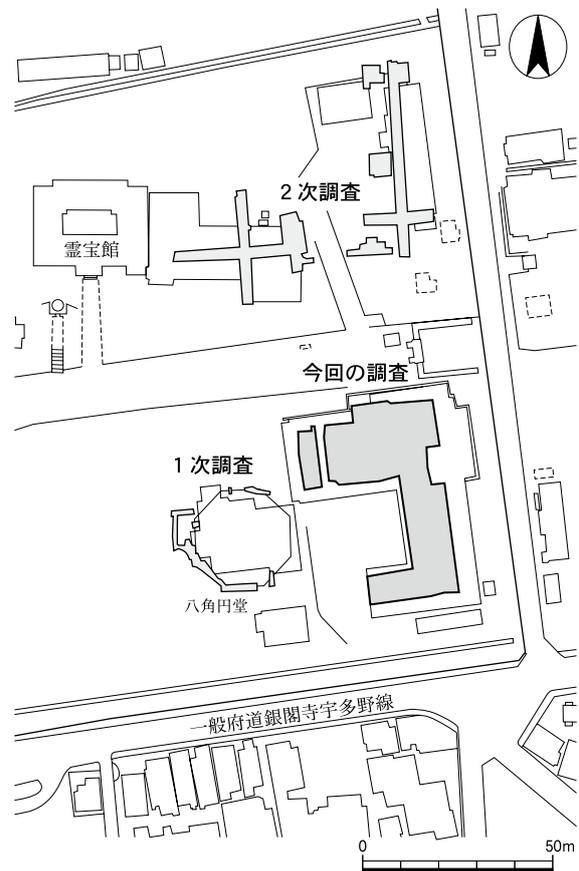


図51 調査区配置図（1：2,000）

西辺基壇を検出し、今回の調査では僧坊跡を検出した。円堂院には円堂・中門・経蔵・護摩堂・僧坊・円堂鎮守などの存在が知られ、このうち調査で八角円堂と僧坊の位置が解明された。

『仁和寺境内発掘調査報告』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第9冊 1990年報告

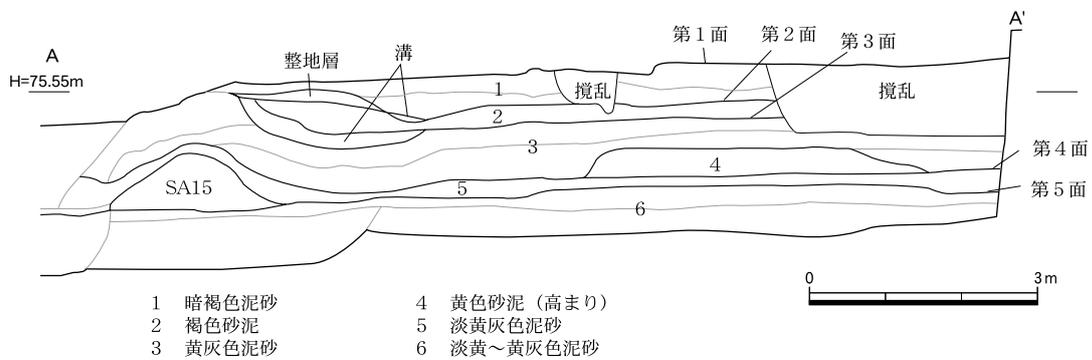


図 52 セクション断面図 (1 : 100)

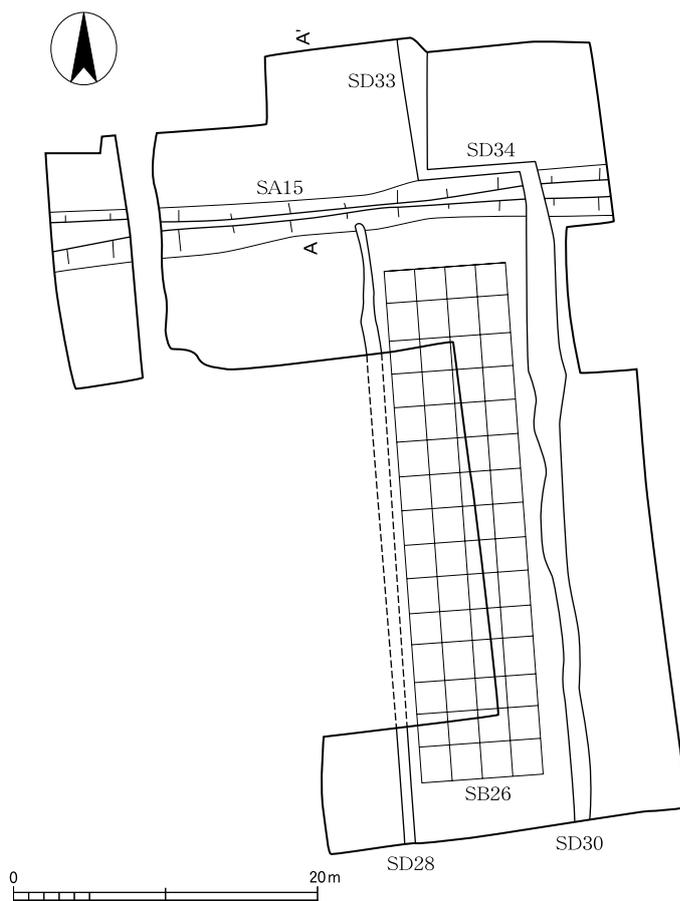


図 53 主遺構復元図 (1 : 500)

16 常盤東ノ町古墳群・仁和寺子院跡 1

経過 右京区常盤東ノ町で稲栄織物株式会社の社屋新築工事が行われることになり、発掘調査を実施した。当該地は仁和寺子院跡に推定される地域である。

遺構 中世から近世の土壙墓 42 基と古墳時代後期に属する円墳 3 基を検出した。

古墳の規模は 14 ～ 18 m であると推定されるが、いずれも墳丘部は削平されて残っておらず、石室の下段の石組および周溝が確認できたのみである。石室は全て横穴式石室である。2 号墳は出土遺物から追葬が認められる。

遺物 1 号墳 須恵器（壺・脚付壺・高杯・杯身・杯蓋：TK209 型式）、土師器壺、鉄鏃、柄頭。

2 号墳 須恵器（壺・杯身・杯蓋：TK43 型式・長頸壺・高杯・杯身・杯蓋：TK209 ～ TK217 型式）、土師器甕・椀、鉄鏃、鉄製刀子、銀製環。

3 号墳 須恵器（壺・脚付壺・杯身・杯蓋：TK217 型式）、皮吊金具、ほかに弥生土器、中近世の陶磁器類、瓦、鉄製釘、古銭、五輪塔などが出土している。

小結 常盤東ノ町古墳群の発見は、発掘当初全く予想外のことであった。調査は仁和寺子院跡推定地を対象としたものであったが横穴式石室をもつ 3 基の円墳が検出された。出土遺物から古墳の築造・埋葬を順序づけると、2 号墳 → 1 号墳 → 2 号墳（追葬） → 3 号墳となる。

『常盤東ノ町古墳群』京都市埋蔵文化財研究所調査報告 - I 1977 年報告

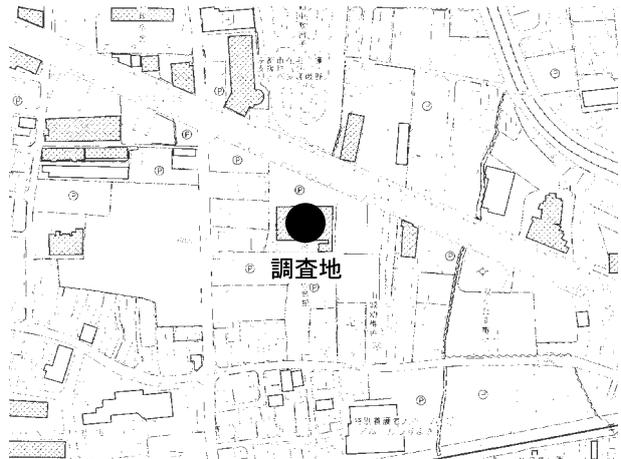


図 54 調査位置図 (1 : 5,000)

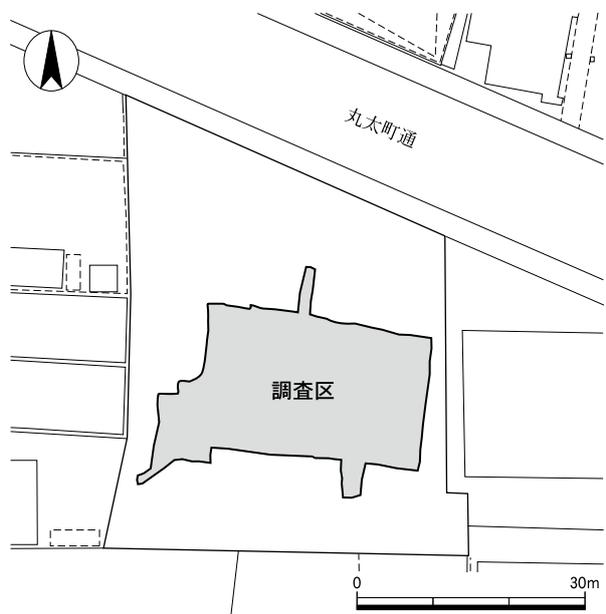
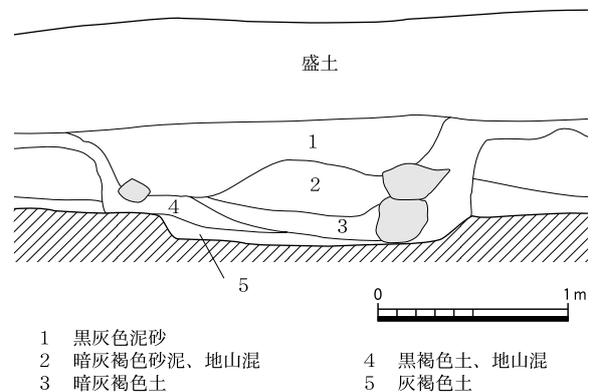


図 55 調査区配置図 (1 : 1,000)



- | | |
|--------------|------------|
| 1 黒灰色泥砂 | 4 黒褐色土、地山混 |
| 2 暗灰褐色砂泥、地山混 | 5 灰褐色土 |
| 3 暗灰褐色土 | |

図 56 1 号墳断面図 (1 : 40)

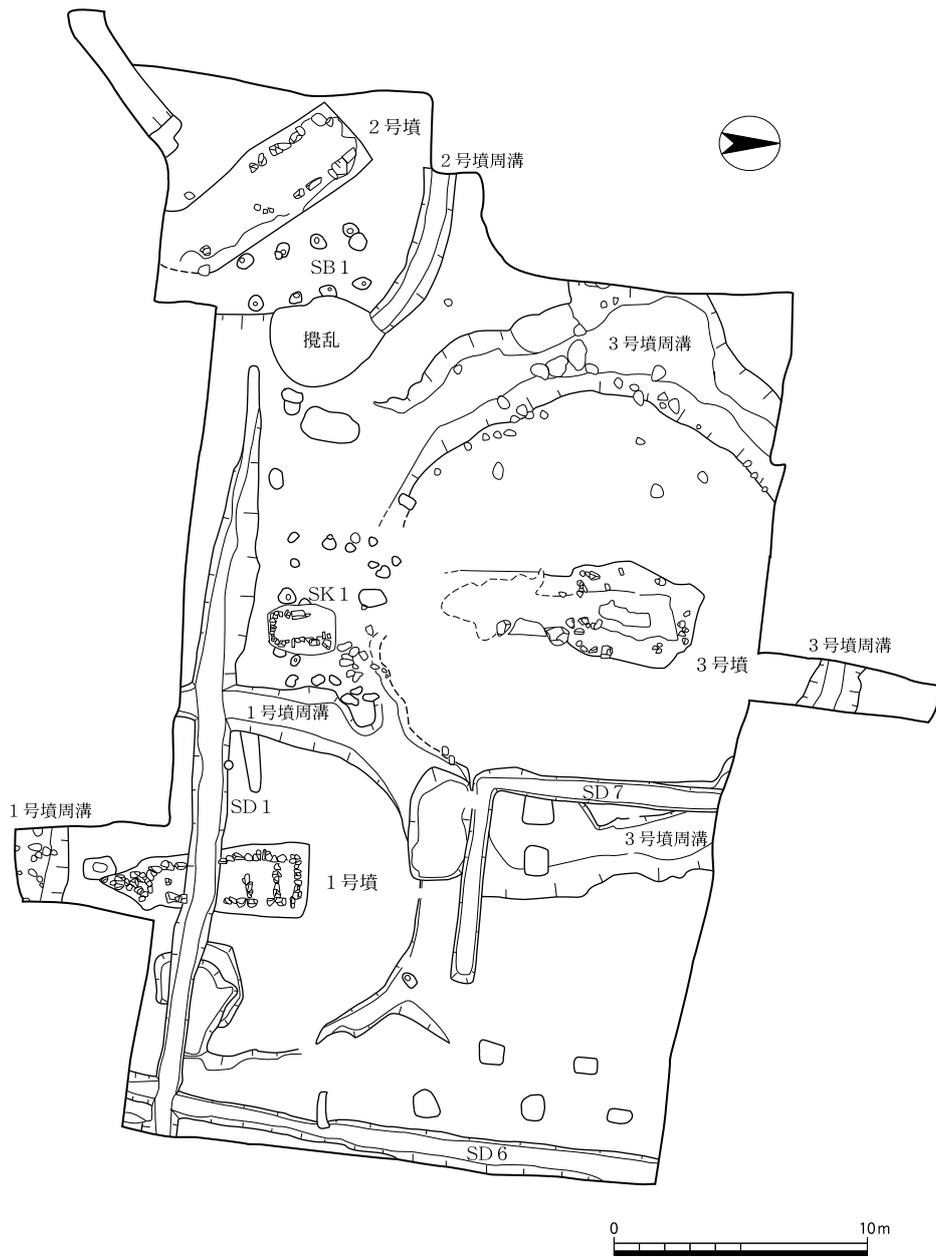


图 57 遺構平面図 (1 : 300)

17 常盤東ノ町古墳群・仁和寺子院跡 2

経過 右京区常盤東ノ町でハイツ新築工事に伴い発掘調査を実施した。当該地は常盤東ノ町古墳群および仁和寺の子院が多数存在していたと考えられる。

遺構 基本層序は地表下 0.8 m で黄灰色砂礫の地山となる。この面に至るまで遺構は検出されなかった。検出した遺構はほとんど攪乱・破壊を受けており、断片的に当時の様相を推定するにとどまった。

調査区の南西隅で墳丘、周溝と推定される遺構の一部を検出した。墳丘は上部を削平され、地山の上に人工的に積んだ土層が認められた。石室推定部と考えられる遺構は長さ 8.3 m 以上、幅 3.1 m で長楕円形の掘形をもつ。その中に石の抜き取り跡と考えられる遺構が検出され、底部に灰褐色粗砂を敷いている。全体の規模は、調査区の南西隅に墳丘の一部がかかったのみであり、詳細は不明である。

小結 今回調査した古墳を含む常盤東ノ町古墳群は、嵯峨野の古墳群から双ヶ岡の古墳群をつなぐ中間に位置する。同じ時期でありながら平野部に立地する古墳群であるということが、丘陵部に立地する嵯峨野古墳群や双ヶ岡古墳群と一線を画している。

『京都市埋蔵文化財研究所概報集 1978 - I』1978 年報告

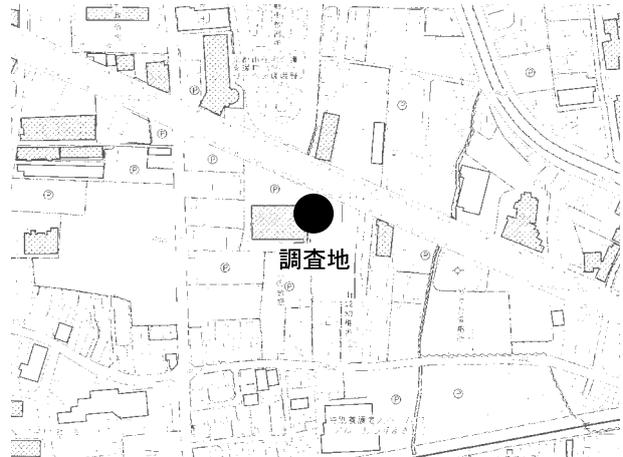


図 58 調査位置図 (1 : 5,000)

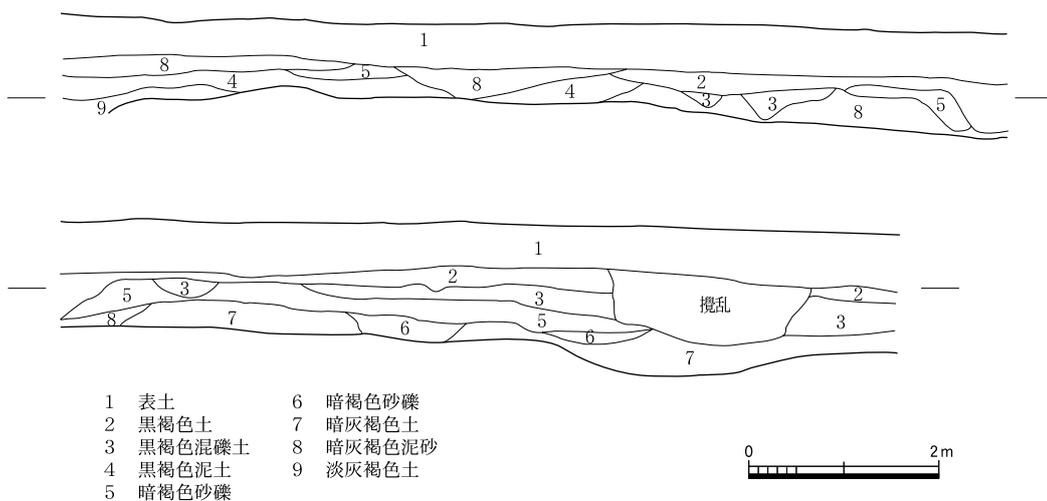


図 59 東壁断面図 (1 : 80)

18 仁和寺子院跡

経過 調査地は右京区常盤一ノ井町の関西電力双ヶ岡変電所の増築予定地である。当該地周辺には常盤東ノ町古墳群および仁和寺の子院が多数存在していたと考えられる。

遺構・遺物 基本層序は盛土 (0.6 m)、旧耕作土 (0.2 m)、床土 (0.15 m)、淡黒褐色土(包含層:0.1 ~ 0.15 m)、黒褐色土(包含層:0.15 ~ 0.2 m)、淡緑灰色砂礫層(地山)となる。淡黒褐色土面でSK 1・2を検出した。他の土壌、ピットは地山面で検出した。

SK 1 長辺 3.6 m、短辺 0.5 m以上の土壌状遺構。埋土は黒褐色土。

SK 2 長辺 3.2 m以上、短辺 1.8 m以上の土壌状遺構。埋土は黒褐色土。10世紀代の土師器杯、須恵器壺片、弥生時代後期から古墳時代前期の土器片が出土した。SK 1・2は出土遺物や切り合い関係から10世紀代と考えられる。

その他、径 20 ~ 30 cmのピットを数基検出したが建物跡としてはまとまらなかった。

出土遺物は少なく、小破片がほとんどである。遺構から出土した遺物はSK 2からのものであり、他は床土、淡黒褐色土、黒褐色土の遺物包含層から出土した。床土からは室町時代の土師器皿が出土した。淡黒褐色土からは古墳時代前期の二重口縁壺、タタキ痕のある甕底部、櫛描直線文・櫛描列点文を施した小破片が出土した。黒褐色土からは弥生時代から古墳時代前期の土器片が数点出土した。

小結 これまで双ヶ岡周辺では弥生時代から古墳時代前期の遺跡は、ほとんど発見されていなかった。今回の調査によって出土した弥生時代後期から古墳時代前期の土器は個体数も少なく、小破片であったが、この時代の遺跡が周辺に存在することが確認できた。調査の目的であった仁和寺子院跡に関連する遺構は確認できなかった。

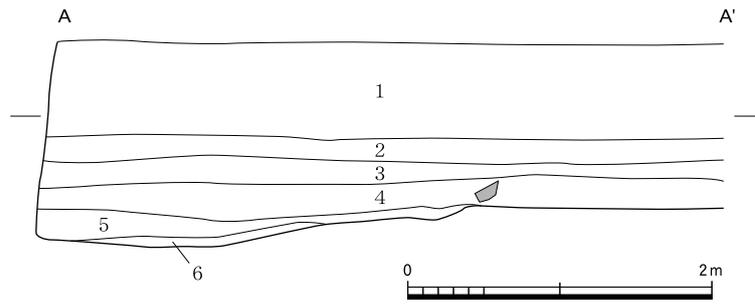
『京都市埋蔵文化財研究所概報集 1978 - I』1978年報告



図 60 調査位置図 (1 : 5,000)



図 61 調査区配置図 (1 : 1,000)



- | | |
|--------|----------|
| 1 盛土 | 4 淡黒褐色土 |
| 2 旧耕作土 | 5 黒褐色土 |
| 3 床土 | 6 淡緑灰色砂礫 |

図 62 西壁断面図 (1 : 50)

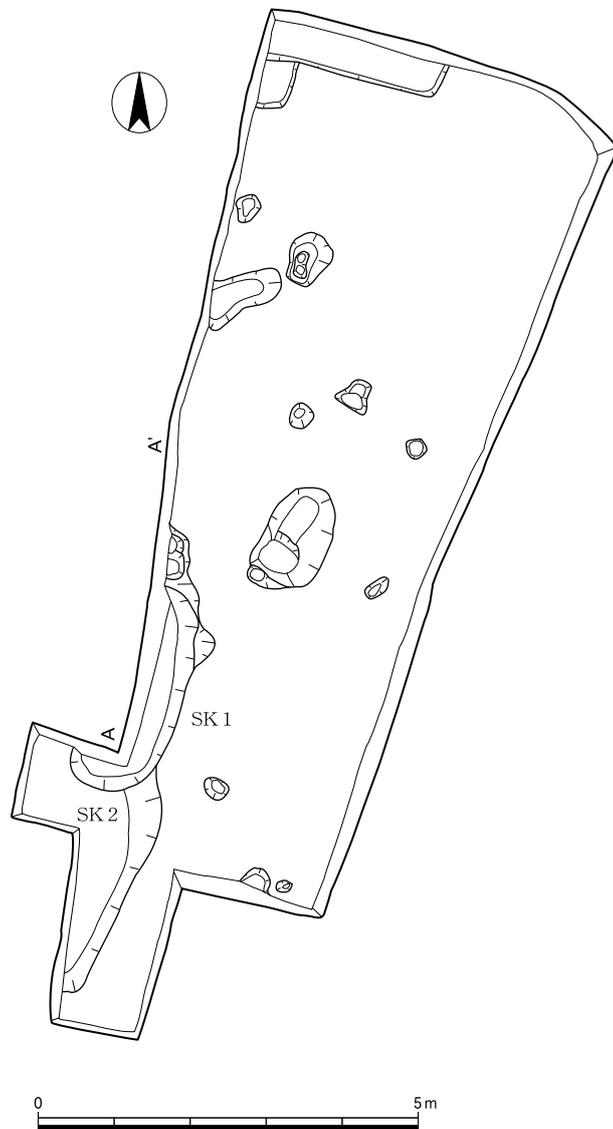


図 63 遺構平面図 (1 : 100)

19 臨川寺旧境内

経過 右京区嵯峨天竜寺造路町に出版健康保険組合の保養所が建設されることになった。当該地は京都市の風致地区であり、臨川寺旧境内の一角であるため、発掘調査を実施した。

遺構 基本層序は表土 (0.1 ~ 0.2 m)、第2層暗褐色土 (0.2 ~ 0.4 m)、第3層黄褐色砂泥 (0.2 m)、第4層黄灰色泥土 (0.3 m)、第5層暗黄褐色泥土 (0.1 m)、黄褐色泥土の地山となる。BトレンチはAトレンチより1 m低く、第4層・第5層は認められないが他は同様である。

平安時代以降の各時代にわたる遺構を検出した。遺構は土層との関係で地山上面で検出したもの(平安時代から鎌倉時代の溝)、第4層上面で検出したもの(室町時代の土壌など)、第3層上面で検出したもの(安土桃山時代から江戸時代前半の土壌)、第2層上面で検出したもの(江戸時代後半の土壌など)に分かれる。

遺物 出土した遺物には土器類、瓦類、金属製品、石製品などがあるが、大半を瓦類が占める。土器類は平安時代初期から江戸時代後半のものが出土しているが、良好な一括資料となるべきものはない。

小結 臨川寺に関連する調査はこれまでに4回実施され、堂宇跡、庭園跡が確認されているが、今回の調査では臨川寺に関係する建物遺構は全く認められなかった。臨川寺創建以前および以後の、数回にわたる整地層があり、それぞれの面で遺構群を検出した。いままで検出されていなかった臨川寺創建以前の平安時代から鎌倉時代の遺構が検出されたことは大きな成果である。

『臨川寺旧境内遺跡発掘調査報告』京都市埋蔵文化財研究所調査報告Ⅳ 1978年報告

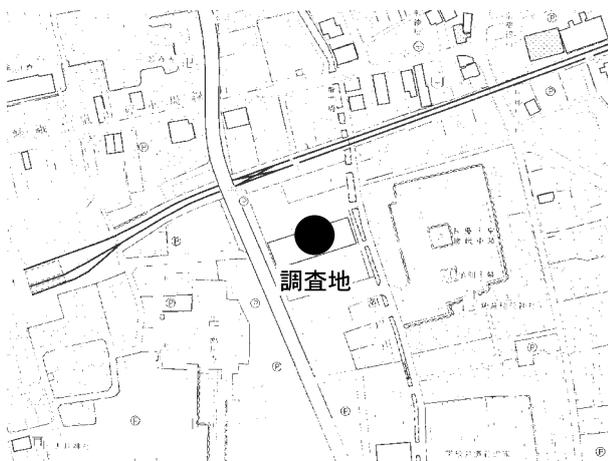


図 64 調査位置図 (1 : 5,000)

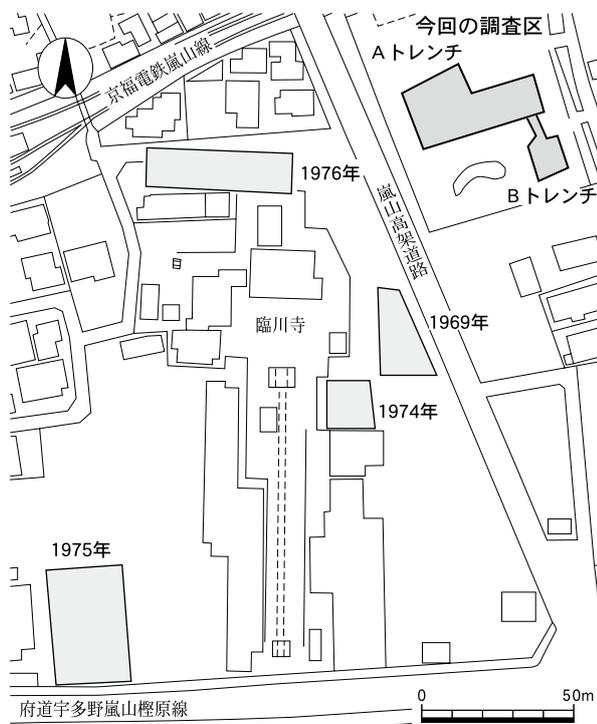


図 65 調査区配置図 (1 : 2,500)

20 法住寺殿跡（図版5）

経過 東山区三十三間堂廻りにある京都府赤十字血液センターで増築工事が行われることになり、発掘調査を実施した。当該地は法住寺殿跡に推定されている。

1966年に京都府文化財保護課が調査地の北側で調査をしたところ平安時代の瓦敷をはじめ、江戸時代の建物跡や井戸などが検出された。

調査は地表下1.5mまで重機掘削し、江戸時代の面から手掘りで開始した。

遺構・遺物 調査地の基本層序は盛土(1.4m)、明灰色砂質土(旧耕土:0.2m)、暗黄灰色砂礫(0.1m)、暗茶褐色砂質土(0.1m)、明黄色粘土(0.2m)、黒褐色泥土(0.5m以上)となる。

第1面(暗茶褐色砂質土上面)では建物跡(SB1)、石敷1、溝(SD1~4)、柵列、土壌、カマドなど近代から近世の遺構を検出した。

SB1 小型の礎石を有する建物である。1間は2.4mを測る。柱間には小さな石があり、床張りの建物であった可能性がある。

石敷1 2.2m×1mの範囲に川石を主として敷き詰められたもので、建物1の入口ないし、石踏みの上がり口と思われる。

SD3・4 幅1.0~1.2mの南北方向の溝で、間隔は約8mである。道路の側溝と考えられる。SD3より近世の五輪塔、火鉢、施釉陶器などが出土した。

柵2 建物に付属していたと思われる。SD3に沿っている。

第2面(明黄色粘土上面)では建物跡(SB2・3)、石敷2、カマド1・2、土壌、井戸など近世から室町時代後期の遺構を検出した。

SB2 SB1の前身の建物で、SB1の下層で検出した。4間×2間以上の規模で、北側に大型石を叩き込んだ池跡(石敷2)が取り付く。

SB3 2間×2間の小さな柱穴を持つ掘立柱建物である。

カマド1・2 2個の不整円形の土壌が連結した形

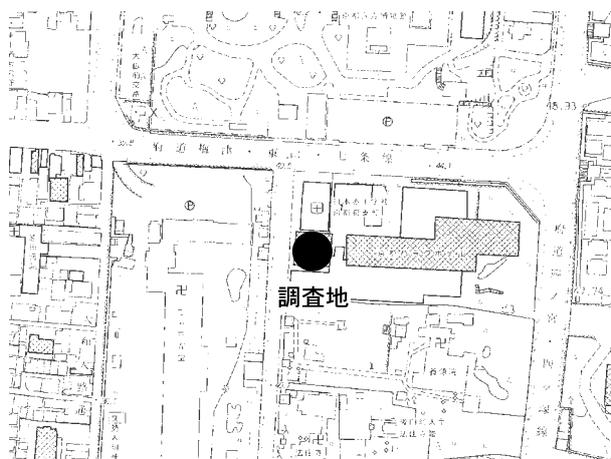


図66 調査位置図(1:5,000)



図67 調査区配置図(1:800)

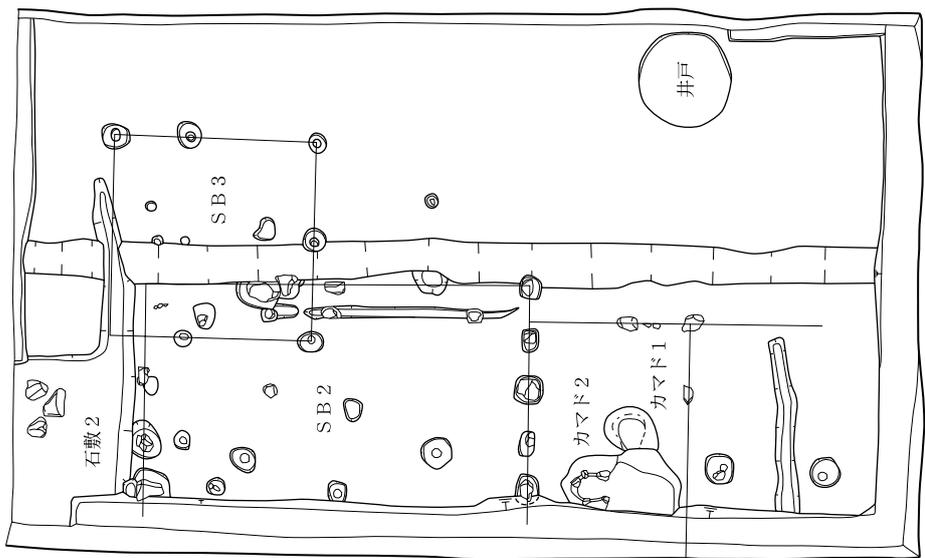
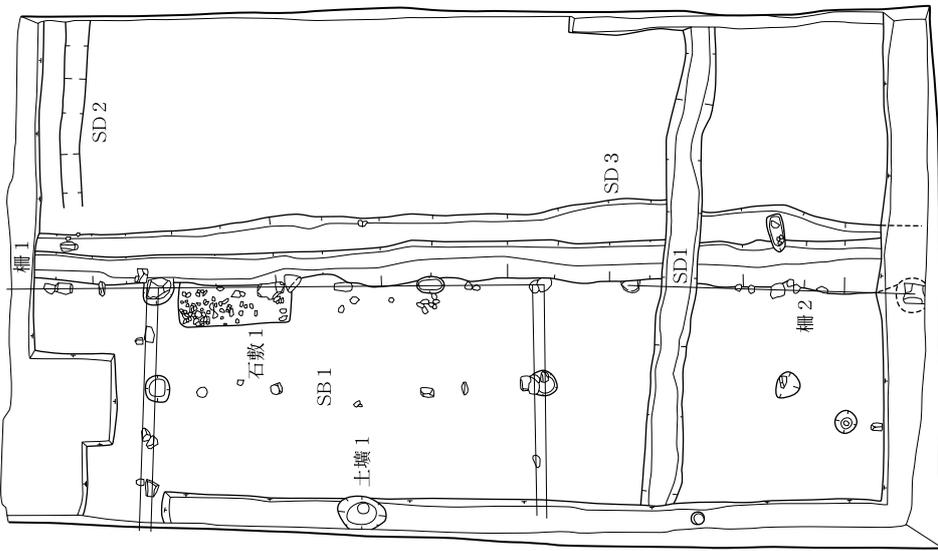
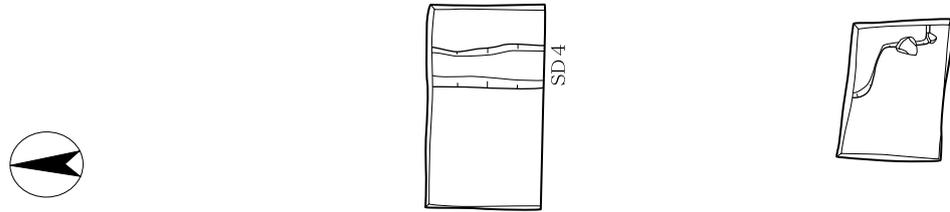
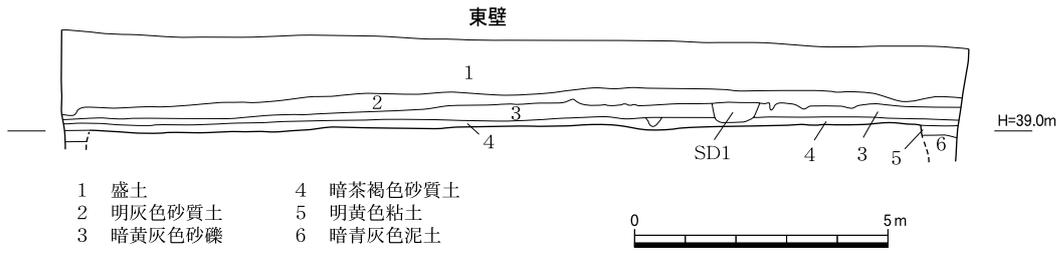


図 68 遺構実測図 (1 : 150)

状を呈し、南辺以外は高熱を受けて変質したカマド壁が残る。カマド壁は石を立てかけて粘土を巻き、床にも石張りをしている。カマドと建物との関連は不明である。

井戸 直径 1.8 m を測り、道路面の下より掘り込まれている。

出土した遺物の大半は近世の陶磁器、焼締陶器、瓦などである。平安時代の土器類は小片で図示していないが、後世の遺構・整地層から出土した軒瓦類を図示した（図 68）。

小結 今回の調査では近世から室町時代後期の遺構面 2 面を検出したが、法住寺殿に関連する遺構は検出されなかった。平安時代後期の軒瓦片や、須恵器片などが後世の遺構、整地層などから出土していることから、室町時代後期頃に大規模な整地が行われたと考えられる。しかし、方広寺造営前後の遺構・遺物が検出されており、これらの関係と性格を解明する上で重要な資料を得ることができた。

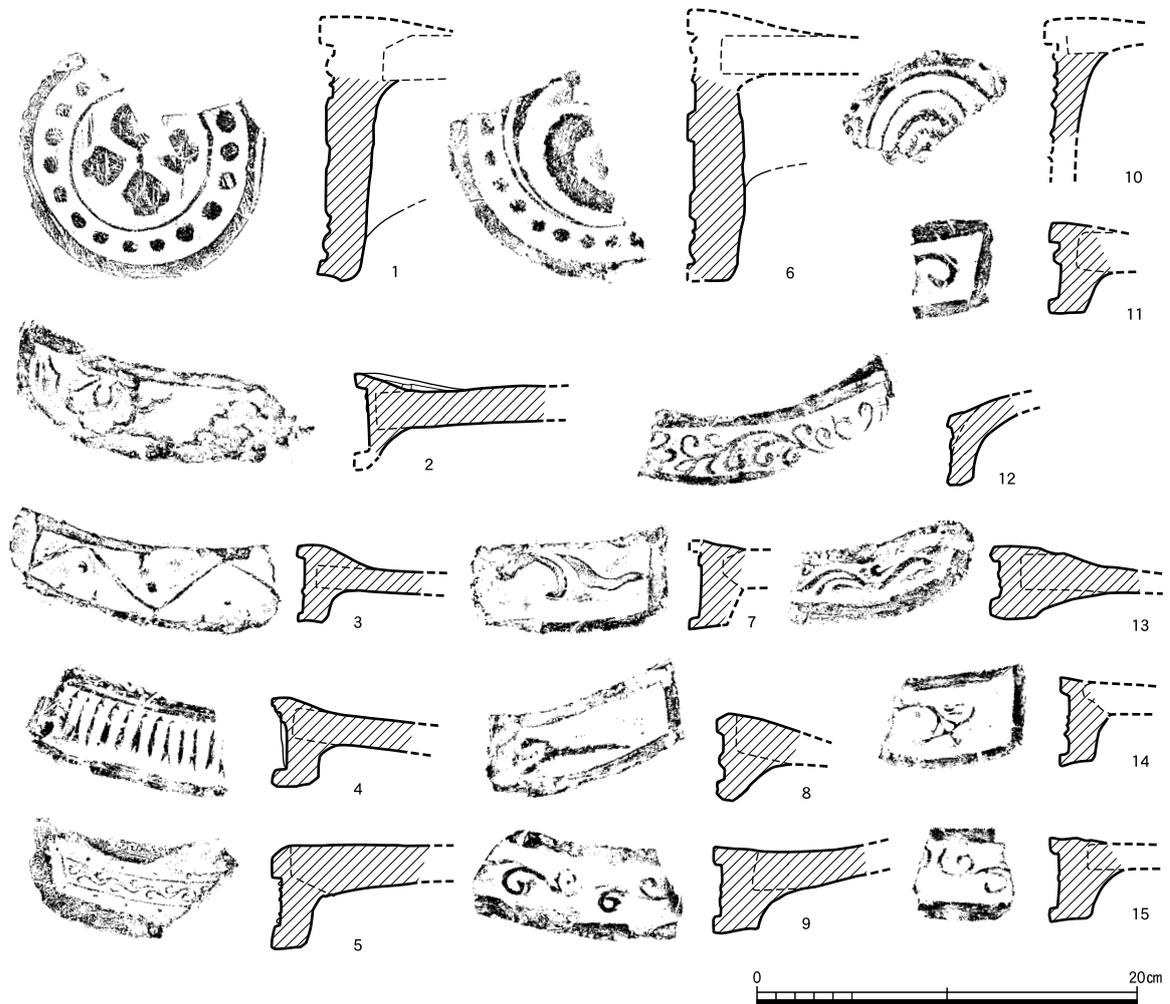


図 69 出土軒瓦拓影・実測図（1：4）

21 山科本願寺跡1 (図版6-1)

経過 安祥寺中学校の校舎を増築することになり、発掘調査を実施した。当核地は、文明十年(1478)、蓮如が山城国宇治郡山科郷内野村に本願寺を再建し、本願寺の門徒衆によって繁栄した寺内町山科の一角を占める。

調査は校舎増築予定地に19.5m×8mの調査区を設定し、盛土、整地層(地表下2.4m)まで重機掘削し、調査を開始した。

遺構・遺物 調査区の基本層序は盛土(1.8m)、褐色砂礫(整地層:0.6m)、黒褐色土(旧

耕土:0.15m)、褐色砂礫層の地山(標高49.4m)となる。黒褐色土は江戸時代の遺物を少量包含している。褐色砂礫層上面では、土壌状の凹みを確認したが遺物は出土していない。

小結 今回の調査では山科寺内町に関連する遺構および遺物はまったく確認できなかった。当調査区は、光照寺蔵の「野村本願寺古御屋敷之図」から推定すると蓮如上人御塚の北西部、外寺内の一角を占める地区と考えられるが、絵図には個々の地割りなどの詳しい記載がないため、それ以上のことは不明である。

寺内町に関連する遺構は全く確認できなく、焼亡した痕跡も認められなかった。空閑地であったか、後世の削平により遺構が消滅してしまったのかは、今後の調査の成果を待たなければならない。

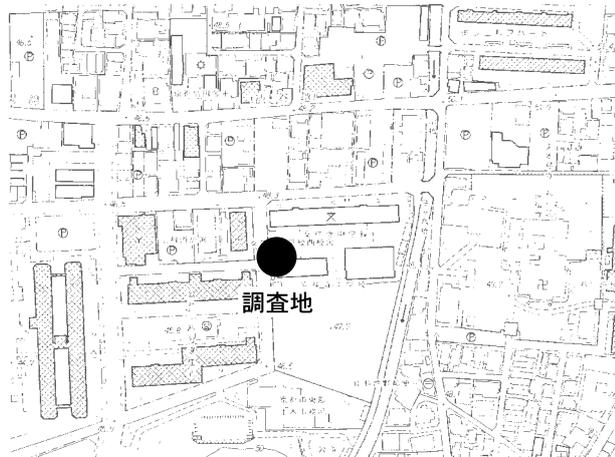


図70 調査位置図(1:5,000)

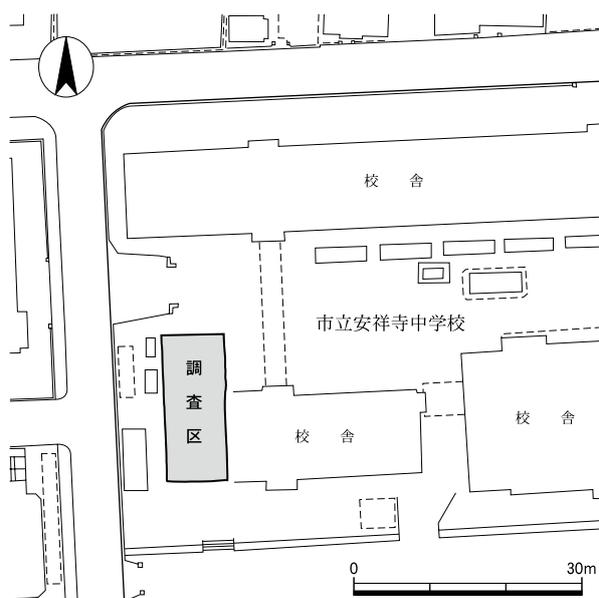


図71 調査区配置図(1:1,000)

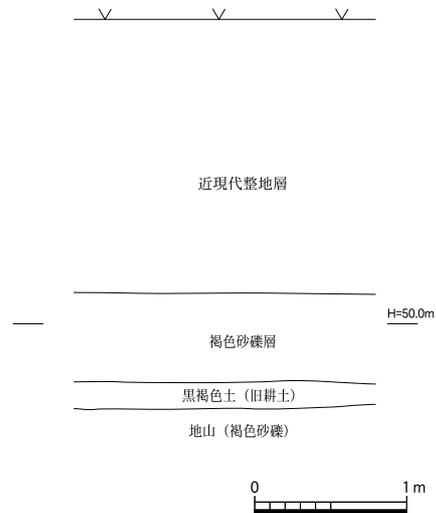


図72 基本層序(1:50)

22 山科本願寺跡 2 (図版6-2)

経過 山階小学校の校舎を改築することになり、発掘調査を実施した。調査地は四ノ宮川と山科川が合流する緩扇状地に位置し、文明十年(1478)、蓮如が山城国宇治郡山科郷内野村に本願寺を再建し、本願寺の門徒衆により繁栄を極めた寺内町山科の外寺内にあたる。すぐ北側に蓮如上人御塚があり、また学校内には一部土塁の痕跡をとどめている。

調査は盛土、暗灰色砂礫、灰色砂礫までを重機掘削し、暗茶褐色粘質土層から開始した。

遺構・遺物 基本層序は盛土(0.6m)、暗灰色砂礫(0~0.6m)、灰色砂礫(0.3~0.7m)、暗緑灰色シルトの無遺物層となる。

検出した遺構は暗茶褐色粘質土上面で西から東へ下がる落ち込みが認められた他は、顕著な遺構は検出されなかった。落ち込みは東西10m以上の大規模なものであるが、その全容は確認できず性格は不明である。底部より寛永通寶、近世陶磁器片などが出土しており、江戸時代以降と考えられる。

暗緑灰色シルト上面では、0.6~1.0mで厚さ0.05m前後の不定形な焼土塊が4箇所認められたが遺物は出土せず詳細は不明である。

小結 今回の調査地は蓮如上人御塚の南側、内寺内と外寺内の境付近に位置していることから何らかの遺構の確認が期待された。しかし山科寺内町に関連する遺構は全く検出されなかった。

また包含層や焼亡の際の火災層も確認されなかった。

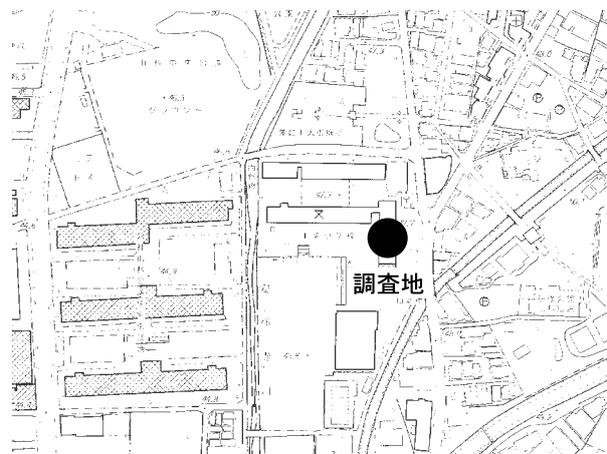


図73 調査位置図(1:5,000)

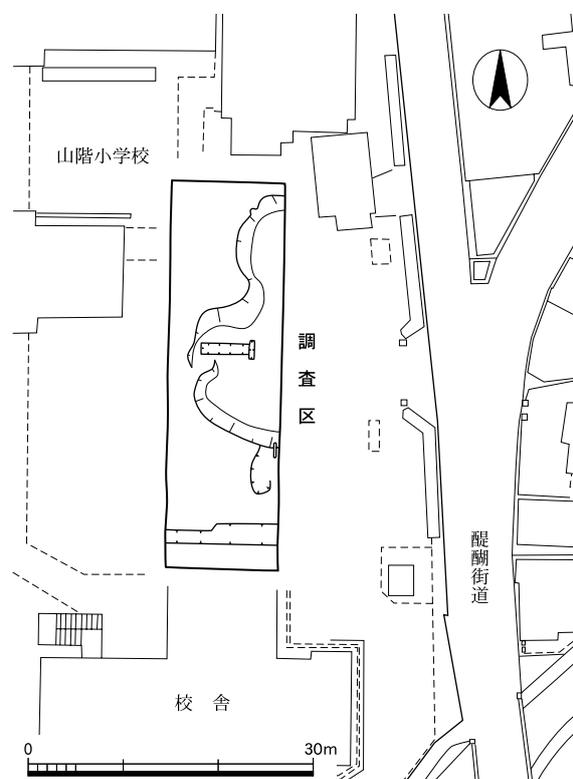


図74 調査区配置図(1:800)

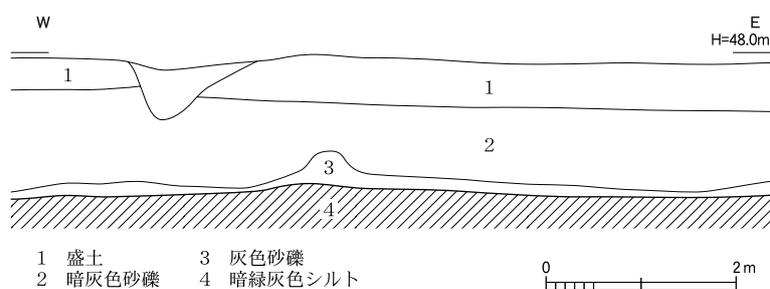


図75 北壁断面図(1:80)

23 深草遺跡

経過 伏見区深草西浦町で下水道工事がシールド工法によって行われるため、工事用の掘削機械設置坑（2箇所）に限定して、発掘調査を実施した。当該地は近畿地方の弥生時代の標識遺跡とされる深草遺跡の南限に当たると推定され、近辺には西飯食町遺跡・西伊達町遺跡・深草寺跡・貞観寺跡・嘉祥寺跡などの諸遺跡が点在している。

調査は道路面のアスファルトおよび現代層まで重機で掘削した。

遺構・遺物 基本層序は現代層、青灰色砂（1層）、暗灰黒色砂泥Ⅰ（2層）、暗灰黒色砂泥Ⅱ（3層）、暗黒褐色砂泥Ⅰ（4層）、暗黒褐色砂泥Ⅱ（5層）、灰色砂（6層）、青灰色砂礫（7層）、黒灰色砂礫（8層）、暗黒褐色砂（9層）、灰色砂礫（10層）、暗灰色砂礫（11層）、暗黒灰色砂礫（12層）となり、以下湧水が著しく、発掘調査から立会調査に切り替えた。

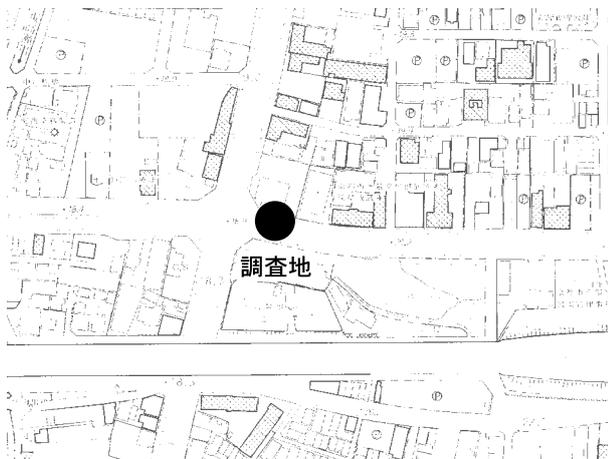


図76 調査位置図（1：5,000）

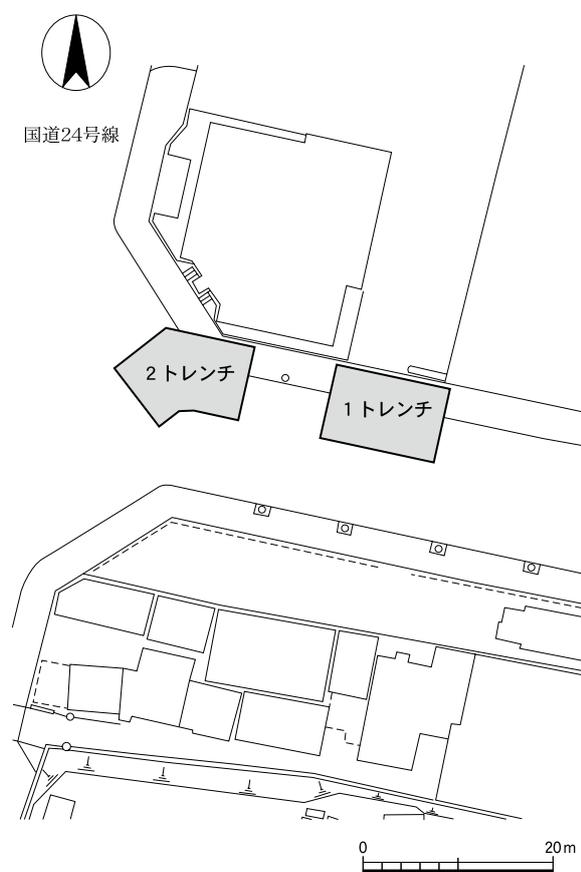


図77 調査区配置図（1：800）

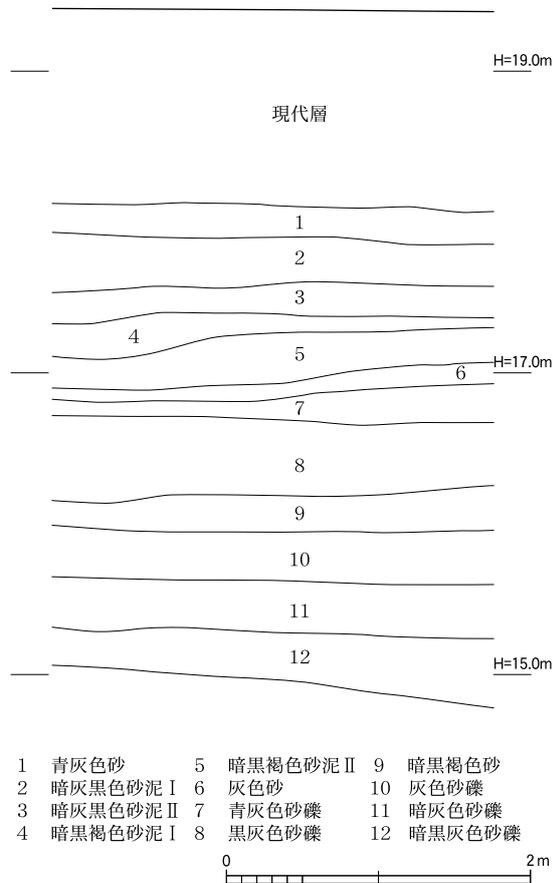


図78 1トレンチ北壁断面図（1：50）

1～12層までの各層からは、弥生土器、須恵器、黒色土器、瓦器、陶磁器、瓦が混在して検出されたが、すべての遺物は著しく磨滅している。

小結 今回の調査では現地表面から4mほど掘り下げたが、いずれも礫砂と泥土の2層からなる自然の流れ堆積であり、遺構も認められず磨滅した微量の遺物を採取したにとどまった。弥生土器は平安時代から鎌倉時代の遺物に混在する状態で検出した。これらの遺物は近辺の遺跡から流れてきた可能性が強く、調査地付近の地形も古代から中世にかけて形成されたものと推察される。

深草遺跡に関する発掘調査はこれまでに数箇所で行われている。しかしながら遺跡の正確な範囲や内容については、いまだ明らかにされておらず、また立会調査の所見と考え合わせてもこの地点まで広がりをもっていたものとは考えられない。

『京都市埋蔵文化財研究所概報集 1977- I』1977年報告

第2章 試掘・立会調査

I 昭和51年度の試掘・立会調査概要

昭和51年度の原因者負担による試掘・立会調査の委託契約件数は、立会調査が12件である。これらの調査は遺構・遺物が希薄であったため一覧表(表2)の記載にとどめ、調査位置を図78～87に示した。

平安京跡 二条城内の立会調査(表2-1、図78)では、近世包含層を確認したが掘削深度・面積が少ないため遺構は検出できなかったが、平安時代の軒瓦や土師器を確認した。二条公園内での立会調査(表2-2、図79)では、遺構は検出できなかったが、遺物では近世陶器を確認した。平安京左京七条一坊の立会調査(表2-3、図80)では、平安時代の井戸を4基検出した。その他には、時期不明の溝1条を検出した。遺物は、平安時代の須恵器・土師器を確認した。

その他の遺跡 尊勝寺跡の立会調査(表2-4、図82)では、弥生時代の溝3条・住居状遺構1棟、平安時代後期のピット3基、近世の溝6条を検出した。遺物は、弥生式土器(V様式)、古墳時代の庄内式の甕や平安時代後期の瓦類・土師器・須恵器・磁器・陶器などを確認した。六勝寺跡の立会調査(表2-5、図82)では、平安時代の大炊御門南北側溝、ピット、落込み、土壇7基、瓦溜を検出した。地表下1.40mで、灰白色砂(白川砂)が表れる。遺物は、軒瓦・土師器・須恵器・磁器・陶器などを確認した。白河北殿跡の立会調査(表2-6、図83)では、地表下140cm位まで現代攪乱となり、遺構は検出できなかった。遺物は、染付・土師器片などを確認した。

鳥羽離宮跡の立会調査(表2-7、図84)では、A区・B区・C区の3箇所で行った立会調査を実施した。遺物は、土師器・瓦・瓦器などを確認した。A区では、平安時代後期の庭石3石を地表下1.5mで検出した。青灰色粘土層を確認した。B区では、平安時代後期の溝状遺構を地表下1.5mで検出した。C区では、中世の石積井戸を地表下1.6mで検出した。

長岡京跡の立会調査(表2-8、図85)では、時期不明の流路を検出した。遺物は、少量の近世瓦片と土師器1片を確認した。

法成寺跡の立会調査(表2-9、図81)では、近世以降の攪乱で遺構は検出できなかった。遺物は、塩壺・泥面子・天目茶碗や昭和初期に京都御所で使用されていた軒丸瓦などを確認した。また上層では、寺院関係の器物も確認した。深草遺跡の立会調査(表2-10、図86)では、弥生時代と思われる溝状落込と土壇状落込を検出した。第Ⅱ様式の弥生式土器と未成品の石包丁を確認した。伏見城跡の立会調査(表2-11、図87)では、石垣跡を検出した。検出した石垣は造成時に変形しており地山が露出していた。遺物は確認できなかった。伏見城跡の立会調査(表2-12、図87)では、遺構・遺物ともに確認できなかった。

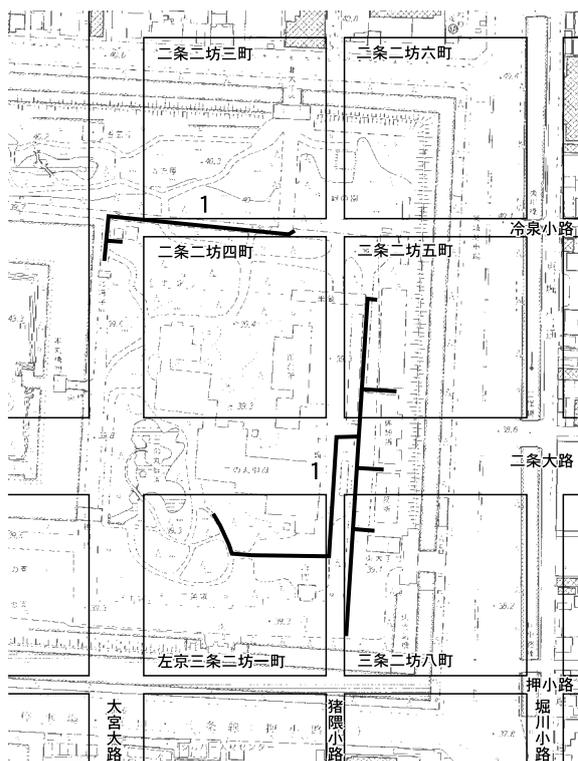


图 79 平安京左京二条二坊、史跡二条城 (1)
立会調査位置図 (1 : 5,000)

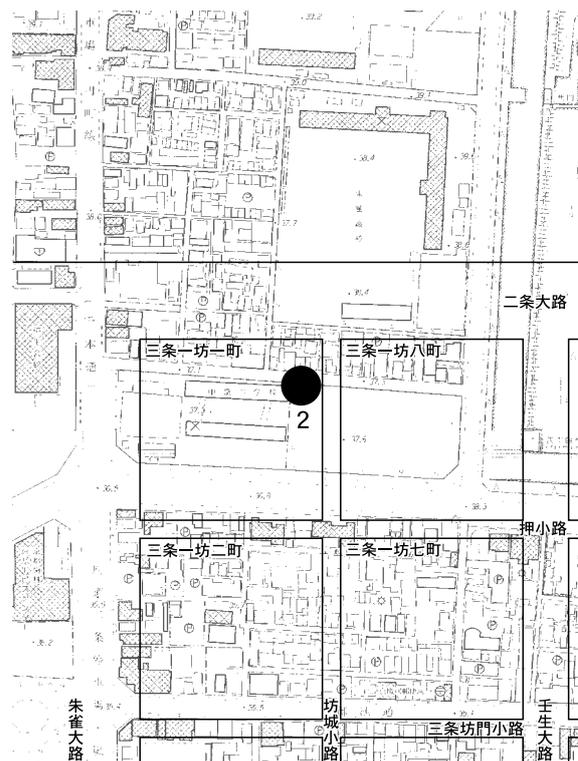


图 80 平安京左京三条一坊一町 (2)
立会調査位置図 (1 : 5,000)

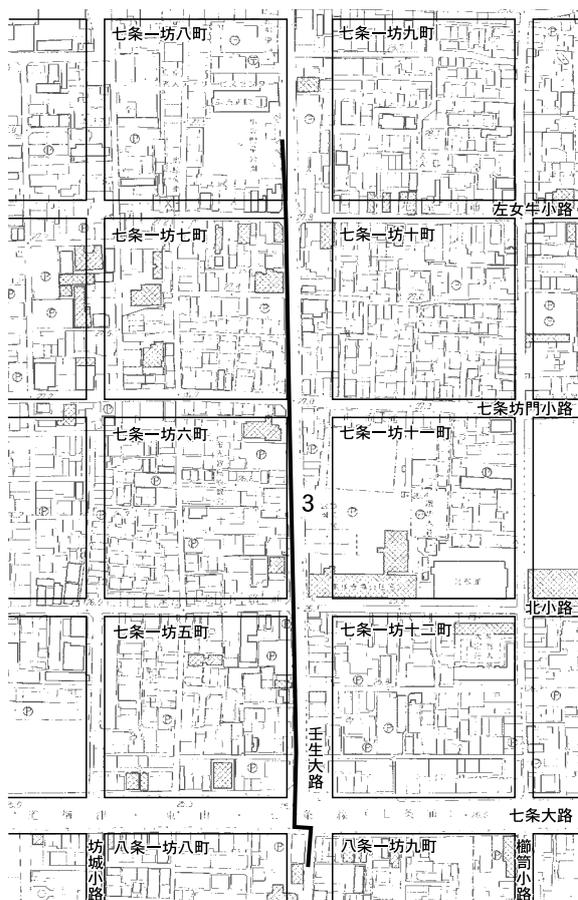


图 81 平安京左京七条一坊 (3)
立会調査位置図 (1 : 5,000)

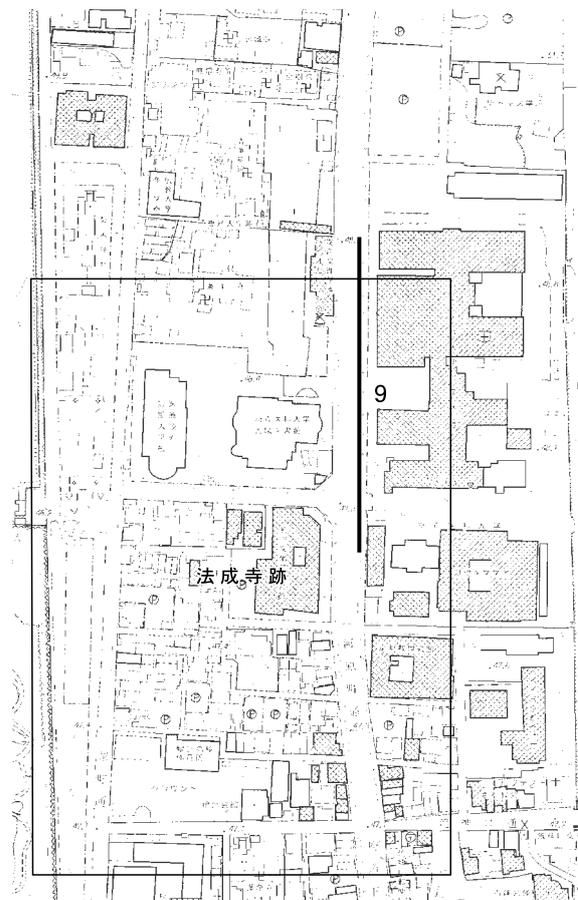


图 82 法成寺跡 (9)
立会調査位置図 (1 : 5,000)

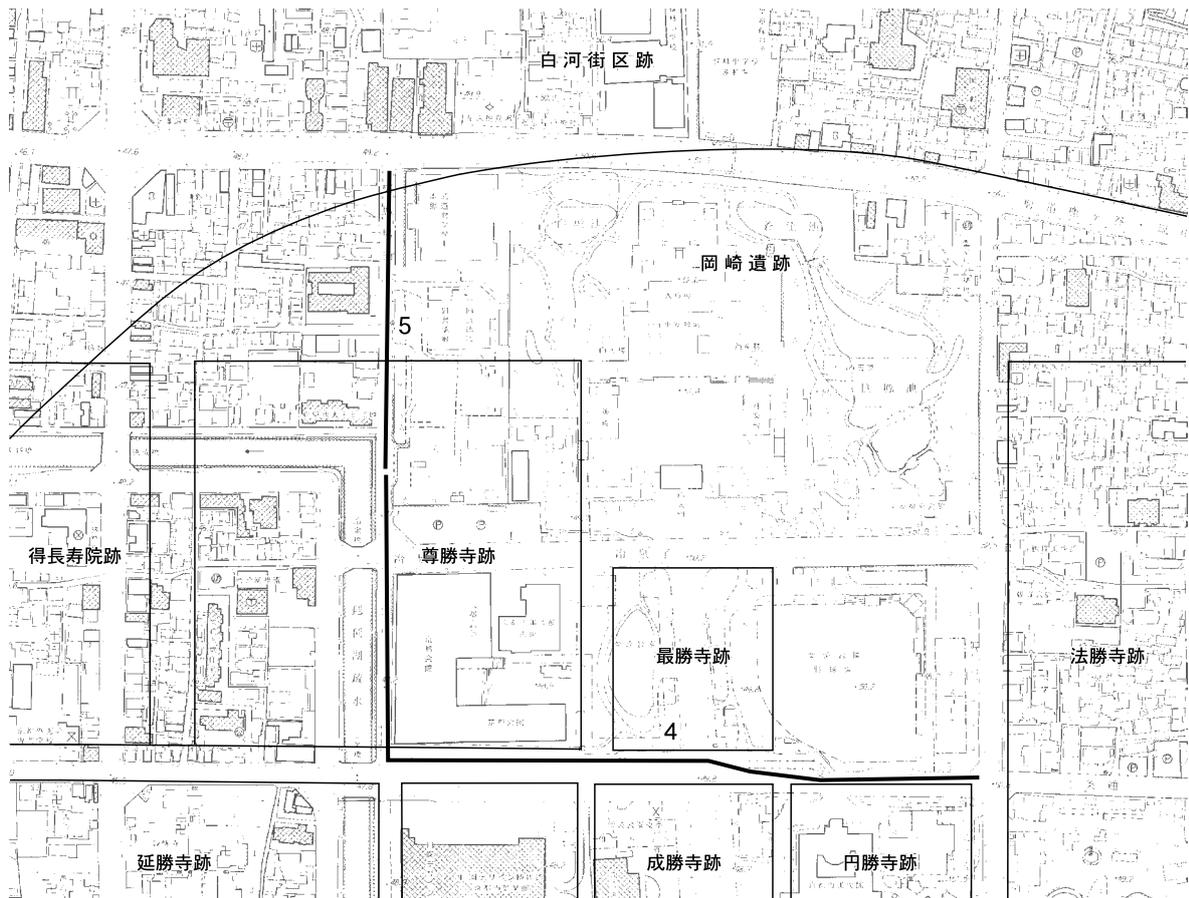


図 83 尊勝寺跡 (4・5) 立会調査位置図 (1 : 5,000)



図 84 白河北殿跡 (6) 立会調査位置図 (1 : 5,000)

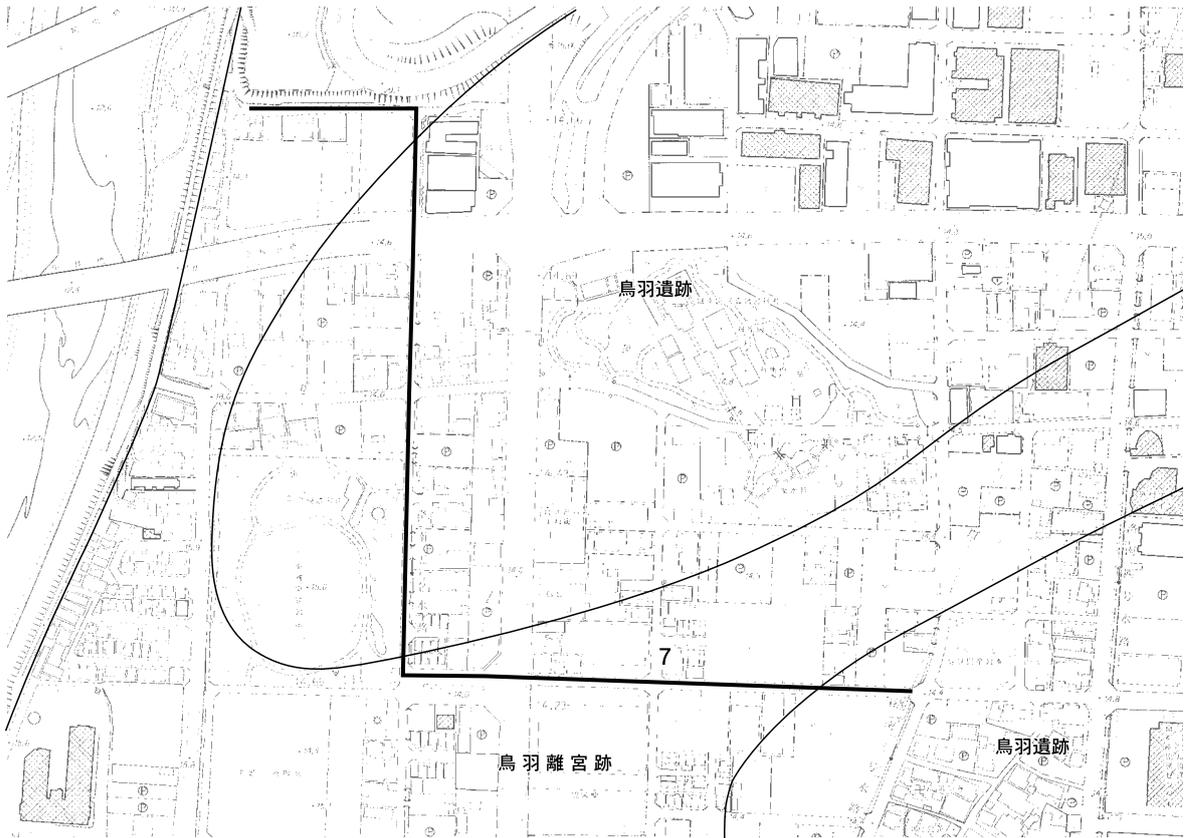


図 85 鳥羽離宮跡 (7) 立会調査位置図 (1 : 5,000)

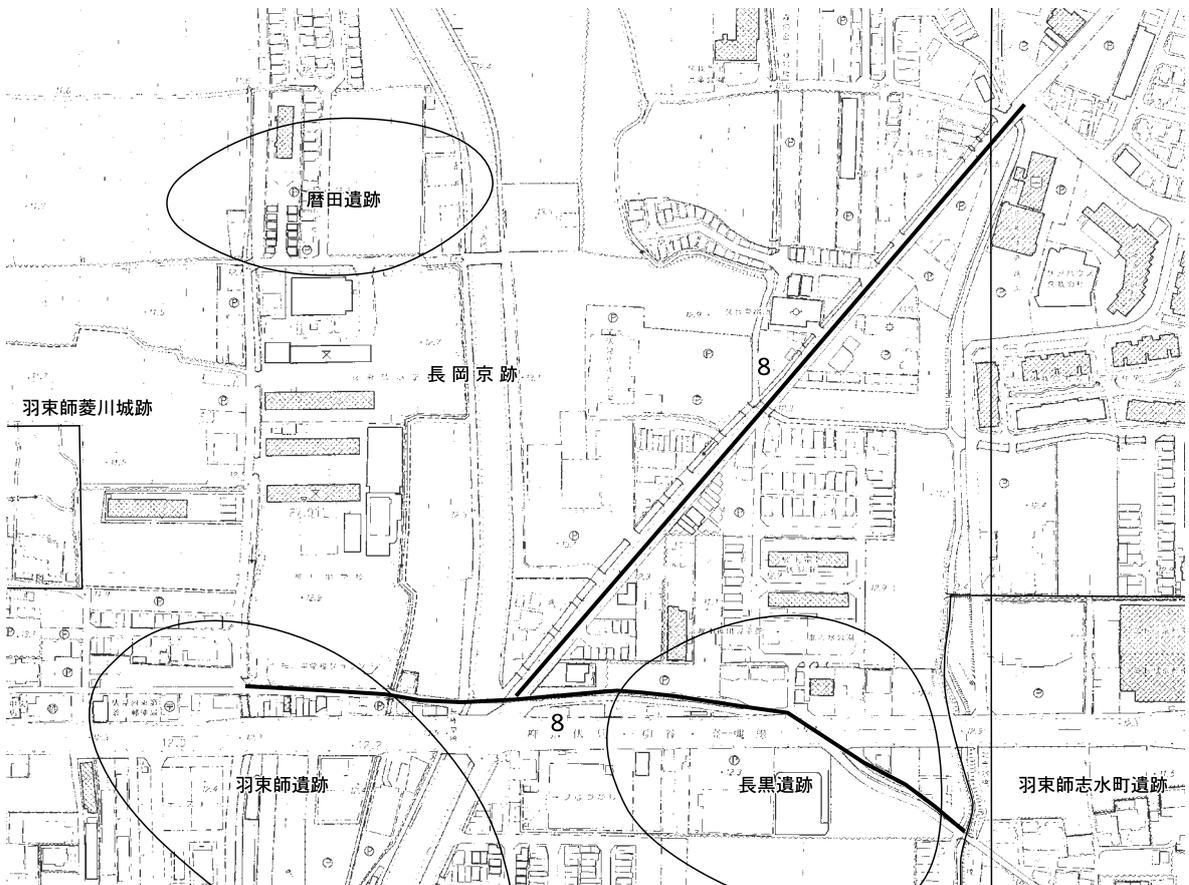


図 86 長岡京跡 (8) 立会調査位置図 (1 : 5,000)

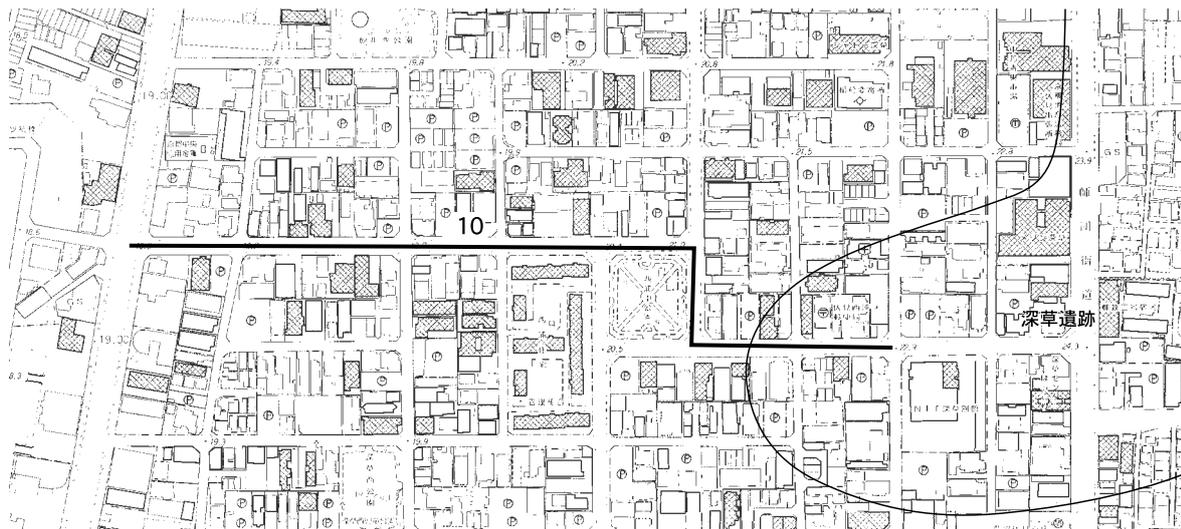


図 87 深草遺跡 (10) 立会調査位置図 (1 : 5,000)

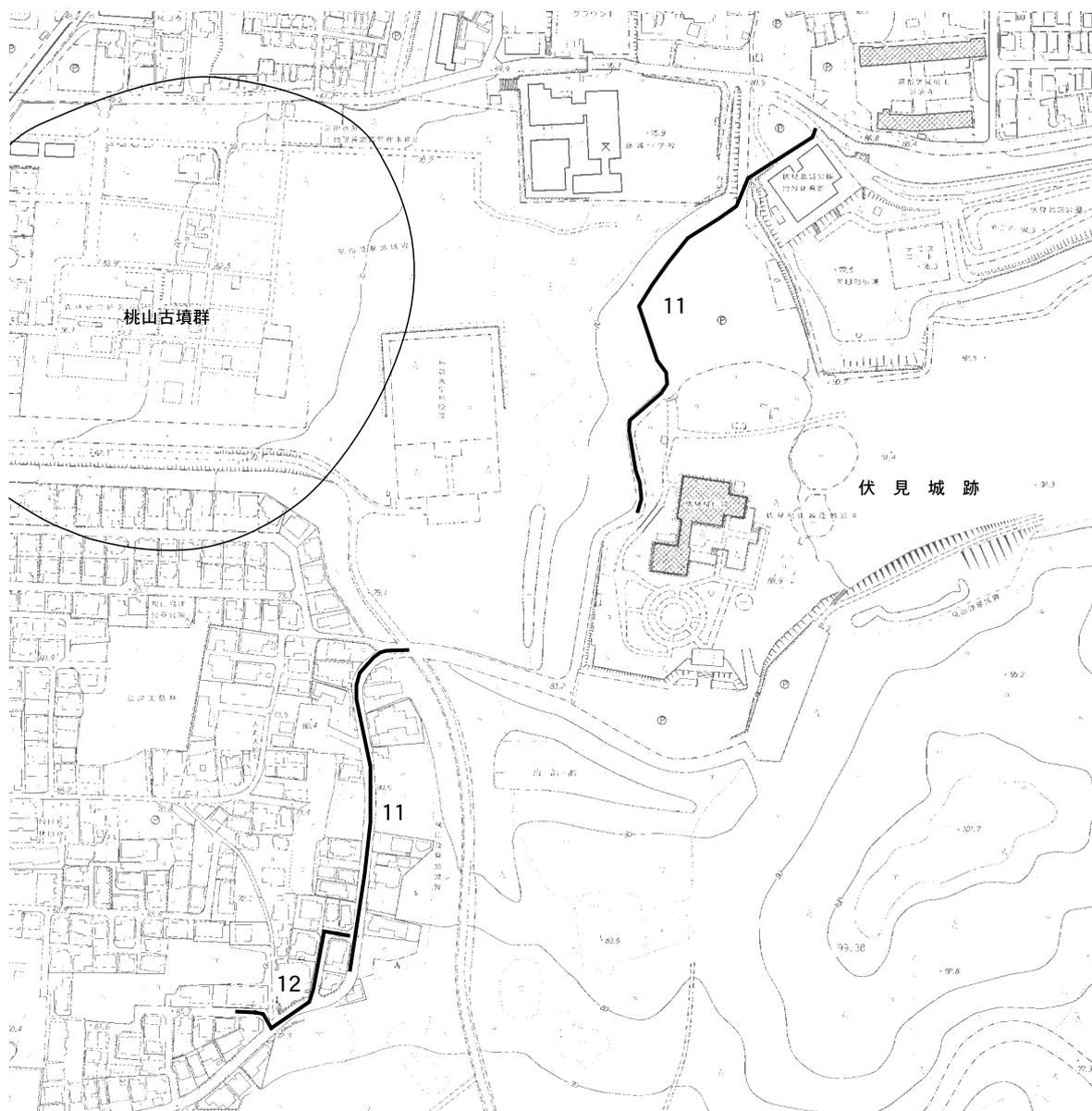


図 88 伏見城跡 (11・12) 立会調査位置図 (1 : 5,000)

表1 昭和51年度発掘調査一覧表

	契約番号・遺跡名・略記号	所在地	期間	面積	委託者	調査員	備考
平安宮	1 51-015 平安宮内蔵寮跡 76HK-JG	上京区千本通上長者町 下る革堂前之町116	1976/12/15 ~1977/01/10	68㎡	(株)日本硝子	木下	
	2 51-003 平安宮縫殿寮跡 76HK-HC	上京区下長者町通裏門 西入坤高町76	1976/11/09 ~1976/11/20	145㎡	林忠一	木下	
	3 51-020-01 平安宮造酒司跡 76HK-MK001	中京区聚楽廻松下町	1977/01/25 ~1977/02/05	279㎡	京都市	本	
	51-020-02 平安宮造酒司跡 76HK-MK002	中京区聚楽廻松下町	1977/02/04 ~1977/03/04	285㎡	京都市	本	
平安京	4 51-028 平安京左京五条一坊五町 76HK-MS	中京区壬生相合町 13-25. 15-1	1977/02/28 ~1977/05/06		(株)長谷川工 務店	木下、吉村	
	5 51-039 平安京左京八条三坊二町 76HK-SS001	下京区塩小路通新町西 入東塩小路町842 (下京区役所)	1977/03/01 ~1977/03/15	160㎡	京都市	浪貝	
	6 51-016 平安京左京九条二坊四町 76HK-DX	南区東寺東門前町1~5	1977/01/07 ~1977/01/23	200㎡	三井銀行	吉村	
	7 51-038 平安京右京四条四坊十二町 76HK-JR	右京区山ノ内池尻町1-1	1977/03/15 ~1977/05/06	105㎡	(株)ダイヤモ ンドファミリー	江谷、磯田	
	8 51-006・51-013 平安京右京六条二坊八町 76HK-KC001	中京区壬生東高田町	1976/11/20 ~1976/12/27	520㎡	京都市/ 京都府国民健 康保険組合	本	
鳥羽離宮	9 51-021 鳥羽離宮跡(東殿) 76TB-TB021	伏見区竹田浄菩提院町	1976/11/03 ~1977/02/20		区画整理	長宗、加納、 鈴木久	
	51-021 鳥羽離宮跡(東殿) 76TB-TB022	伏見区竹田内畑町	1976/11/03 ~1976/12/10	125㎡	区画整理	長宗、加納、 鈴木久	
	10 51-018-01 鳥羽離宮跡(東殿) 76TB-TB023	伏見区竹田内畑町	1976/12/15 ~1976/12/27	37㎡	京都市	長宗、加納、 鈴木久	国庫補助
	51-018-01 鳥羽離宮跡 76TB-TB024	伏見区竹田内畑町	1977/01/10 ~1977/01/20		京都市	長宗	国庫補助
	51-018-01 鳥羽離宮跡(東殿) 76TB-TB025	伏見区竹田内畑町	1976/11/10 ~1977/03/31	45㎡	京都市	長宗	国庫補助
	51-018-01 鳥羽離宮跡(東殿) 76TB-TB026	伏見区竹田内畑町	1976/11/10 ~1977/03/31	103㎡	京都市	長宗、加納、 鈴木久	国庫補助
	51-018-01 鳥羽離宮跡(東殿) 76TB-TB027	伏見区竹田真幡木町	1976/11/10 ~1977/03/31		京都市	長宗、加納、 鈴木久	国庫補助
51-018-02 鳥羽離宮跡(田中殿) 76TB-TB028	伏見区竹田小屋ノ内町	1976/12/28 ~1977/03/31	41㎡	京都市	長宗、鈴木久	国庫補助	

	契約番号・遺跡名・略記号	所在地	期間	面積	委託者	調査員	備考
中 臣 遺 跡	11 51-019・027・034 中臣遺跡 76RT-NK007	A 山科区西野山中臣町 61-1~3	1976/11/25 ~1977/01/21	600㎡	京都市/ 井上重夫	菅田	国庫補助
		B 山科区西野山中臣町、 勸修寺西栗栖野町	1976/12/11 ~1977/01/26	430㎡	京都市/ 大倉観光開発	菅田	
		C 山科区勸修寺西金ヶ崎・ 東金ヶ崎・西栗栖野町	1976/11/25 ~1977/03/10		京都市/ 区画整理道路	菅田	
		D 山科区勸修寺西金ヶ崎 (勸修寺公園予定地)	1976/12/05 ~1977/02/		京都市	菅田	
		E 山科区勸修寺西金ヶ崎	1977/03/17 ~1977/04/12		京都市/ 杉野 茂	菅田	
長 岡 京	12 51-017 長岡京左京三条三坊 76NG-NG001	伏見区羽束師菱川町 (神川小・中学校)	1976/12/04 ~1977/04/23	7,200㎡	京都市	平尾、梅川、 吉川	
そ の 他 の 遺 跡	13 51-035 北野廃寺 76RH-KG001	北区北野上白梅町67	1977/03/07 ~1977/06/04	400㎡	(株)和晃住建	堀内明	
	14 51-022 南禅寺境内 76KS-NZ	左京区南禅寺福地町86		160㎡	南禅寺	木下	
	15 51-014 仁和寺御所跡 76UZ-NG	右京区御室大内33	1976/12/10 ~1977/06/10	1,500㎡	(宗)仁和寺	百瀬、堀内明	
	16 51-001 常盤東ノ町古墳群・仁和寺 子院跡 76UZ-IO	右京区常盤東ノ町26-5	1976/10/26 ~1976/12/06	920㎡	(株)稲栄織物	鈴木広、平田、 百瀬	
	17 51-002 常盤東ノ町古墳群・仁和寺 子院跡 76UZ-KK	右京区常盤東ノ町7	1976/11/03 ~1976/11/15	120㎡	河合小太郎	鈴木広、平田、 百瀬	
	18 51-007 仁和寺子院跡 76UZ-NH	右京区常盤一ノ井町7	1976/11/24 ~1976/12/07	40㎡	関西電力	鈴木広、平田、 百瀬	
	※ 51-026・52-005 常盤仲之町遺跡・広隆寺旧 境内 76UZ-DK001	右京区太秦東蜂岡町 15-7. 8-15	1977/02/01 ~1977/06/10	3040㎡	(株)緑地デザイン	鈴木広	52年度で報告
	19 51-030 臨川寺旧境内 76UZ-LS	右京区嵯峨天龍寺造路 町30-11	1977/02/01 ~1977/04/08	1,000㎡	(株)竹中工務 店	吉川	
	20 51-009 法住寺殿跡 76RT-KE002	東山区三十三間堂廻り 644-7	1976/12/05 ~1977/01/12	200㎡	京都府赤十字 血液センター	吉村	
	21 51-004 山科本願寺跡 76RT-YG001	山科区西野今屋敷町9 (安祥寺中学校)	1976/11/04 ~1976/11/23	157㎡	京都市	堀内明	
22 51-033 山科本願寺跡 76RT-YG002	山科区西野大手先町20 (山階小学校)	1977/01/13 ~1977/02/17	511㎡	京都市	堀内明		
23 51-005 深草遺跡 76TB-FK	伏見区深草西浦町	1976/11/17 ~1976/12/06	154㎡	上下水道	鈴木久		

表2 昭和51年度試掘・立会調査一覧表

	契約番号・遺跡名・略記号	所在地	期間	面積	委託者	調査員	備考
平安京	1 51-036 平安京左京二条二坊、 史跡二条城 76HK-JJ001	中京区二条通堀川西入 二条城前		立 会	京都市	平田	図78
	2 51-011 平安京左京三条一坊一町 76HK-CB	中京区西ノ京北聖町 (二条公園)		立 会 69㎡	京都市	平尾	図79
	3 51-012 平安京左京七条一坊 76HK-GM001	下京区小坂町～木津屋 橋大宮西入		立 会	大阪ガス	家崎、木下	図80
白河街区	4 51-010 尊勝寺跡 76KS-OS	左京区岡崎西天王町～ 最勝寺町	1976/11/25 ～1977/03/10	立 会	上下水道	平田	図82
	5 51-029 尊勝寺跡 76KS-OO	左京区岡崎西天王町～ 聖護院門頓美町	1977/01/21 ～1977/03/09	立 会	上下水道	平田	図82
	6 51-025 白河北殿跡 76KS-WN001	左京区聖護院山王町・ 川原町・東丸太町	1977/02/24 ～1977/03/29	立 会 432㎡	上下水道	和泉田	図83
鳥羽離宮	7 51-008 鳥羽離宮跡 76TB-G-008	伏見区中島秋ノ山町～ 中島中通町	1976/11/ ～1977/04/11	立 会 1,000㎡	大阪ガス	長宗	図84
長岡京	8 51-037 長岡京跡 76NG-D-037	伏見区羽東師菱川町		立 会	電々公社	平尾	図85
その他の遺跡	9 51-023 法成寺跡 76KS-JO001	上京区河原町通今出川 下る梶井町(河原町通)	1977/01/25 ～1977/02/18	立 会 216㎡	上下水道	和泉田	図81
	10 51-031 深草遺跡 76TB-FK	伏見区深草西浦町	1977/ ～1978/03/31	立 会	電々公社	吉村	図86
	11 51-024 伏見城跡 76FD-FJ	伏見区桃山町大蔵・下 野		立 会	上下水道	吉村	図87
	12 51-032 伏見城跡 76FD-OG032	伏見区桃山町三河69- 10地先		立 会	大阪ガス	江谷	図87

版 图

昭和 51 年度
京都市埋蔵文化財調査概要

発行日 2008 年 9 月 30 日

編集発行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265 番地の 1
〒 602-8435 Tel 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町 298 番地
〒 604-0093 Tel 075-256-0961

